

三 日華同盟条約の締結

138

昭和18年4月9日 東条総理大臣
陳公博特使 會談

「對支新政策」の実施状況及び日華基本条約
の改訂に関する東条首相と陳公博との會談

付記一 昭和十八年四月五日付、重光大使意見書

「對支新方針ノ推進ニ就テ」

二 昭和十八年四月十四日付、作成局課不明

「基本條約ニ關スル問題」

三 昭和十八年四月十八日付、作成局課不明

「日華同盟條約案、大東亞憲章」

東條總理大臣陳特使會談要録

昭和十八年四月九日午后五時三十分至同六時三十分

於首相官邸（星野書記官長、清水書記官同席）

一、陳特使ノ挨拶

陳 今回命ヲ奉シ特使トシテ訪日セルトコロ御優遇ヲ賜リ

感激ニ堪エス貴國ハ去ル一月九日租界ノ還付及治外法權

ノ撤廢等ヲ約定セラレタルカ還都三周年記念日ニハ逸早
ク貴國ノ專管租界還付ヲ實施セラレ且ツ北京公使館區域
及厦門共同租界ノ回收ニ協力セラレタリ茲ニ特ニ謝意ヲ
表スル次第ナリ尙中國ニ於テハ既ニ人力物力ノ一切ヲ舉
ゲテ大東亞戰爭ニ寄與セント決心シ居ルニ付テハ今後如
何ニシテ人力ヲ活用シ物力ヲ運用シテ其ノ目的ヲ達成ス
ヘキヤ首相竝ニ各大臣ノ御教示ヲ仰キタシ

二、對華新政策實施後ノ情況

陳 先ツ日本ノ對華新政策實施後ノ情況ヲ御報告致度シ

日本カ一月九日對華聲明ヲ發表スルヤ全國々民ハ大ニ感
奮シ殊ニ三月中旬經濟統制ヲ中國側ニ委ネラレ三月三十
日ノ還都記念日ニ租界ノ還付實施セラルルヤ中國民衆ハ
異常ナル衝動ニ驅ラレタリ其ノ結果（一）從來厭々ナカラ物
資ヲ供出シ居リタルモノモ參戰以後ハ右ハ中國側當然ノ
義務ナルノミナラス一種ノ名譽ナリトサヘ考フルニ至レ
リ此ノ氣持ノ變化ハ中日兩國ノ前途ニ極メテ良好ナル影

響ヲ與フルモノナリ(二)物資統制ヲ中國ノ自辯ニ委ネテヨリ物價ハ一二不合理の暴騰セルモノヲ除キ全般的ニハ漸次低落ノ傾向ヲ現出セリ(不合理の暴騰ヲ見タル品種ニ付テハ目下徹底的ニ調査中ナリ)(三)特ニ喜フヘキハ上海ニ於ケル工場ノ復興ニシテ最近工場主ノ聯合ニ依リ中央儲備銀行ヨリ五億元ノ資金ヲ借受ケ復工ノ準備ニ取掛ルコトナレル

新政策ノ實施日尙淺ク經濟統制ノ機構モ尙完備セサルニ拘ラス其ノ效果右ノ如ク極メテ見ルヘキモノアリ人心亦從ツテ安定スルニ至レリ若シ今後着々之ヲ進ムルニ於テハ今後必スヤ驚クヘキ發展ヲ見ルニ至ルヘキコトハ斷言シテ憚ラサル所ナリ

右ニ關シ重光大使ノ指揮セラルル大使館及現地ニ於ケル貴國陸海軍當局カ何レモ首相ノ理想ト政策トヲ体シ國民政府側ノ豫期以上ノ努力ヲ傾注セラレツアルコトヲ特ニ首相ニ報告スルト共ニ政府並國民ヲ代表シテ之ニ對スル深甚ナル謝意ヲ表スル次第ナリ

尙新政策ノ對外的ニ與ヘタル影響ヲ推スヘキ材料トシテ最近二ツノ「ニュース」ヲ申上クヘシ

重慶側ハ蔣介石ノ機要祕書ノ職ニアル劉某ヲ派遣シ來リ日本側及國民政府側ノ諒解ヲ得タシト申出テタリ其ノ言フ所ニ依レハ重慶側ニ於テハ世界戰爭カ假令如何様ナル情況ニテ終結スルトモ結局中國ト日本トハ諒解セサルヘカラサル立場ニアリ即チ萬一英米カ勝ツコトアリトスルモ蘇聯ニ備フル爲メ歐洲ニテハ獨逸ヲ又東亞ニ於テハ日本ヲ殘存セシムヘキコトハ明カナリトノ見透シニ基クモノナル由ナリ

更ニ一ツノ「ニュース」ハ共產黨ニ關スルモノナルカ最近延安ヨリ代表ヲ派遣シ來リ連絡ヲ求メントシツツアリ要スルニ日本ノ新政策カ遂行セラレ中日關係カ漸次明朗化スルニ伴ヒ和平運動ニ從事シツツアル吾々ノ氣持ハ益々確固トナリ之ニ反比例シテ彼等ノ氣持カ動搖スルコトハ言フ迄モナシ

三、日華基本條約ノ改訂ニ付テ

陳 此ノ際自分ハ一個ノ希望ヲ述ヘタシ、ソレハ日華基本條約ヲ新政策實施後ノ事態ニ照シ曩ニ貴國カ既存ノ約定ニ付テモ中日新關係ノ發展ニ伴ヒ之カ改廢ヲ考慮スヘキ旨聲明セラレタル趣旨ニ基キ新タニ之ヲ改訂シテハ如何

ト云フコトナリ尤モ之レニ關シ豫メ諒解ヲ得タキコトハ
(一)右ハ全ク自分個人ノ意見ニシテ國民政府ヲ代表セル意見ニ非サルコト(二)右ハ中國側ヨリノ要求トシテ持出シタルモノニ非サルコト(三)中國側一方のノコトヲ考ヘテノ意見ニ非ス中日兩國ノ爲メ將又東亞全局ヲ考ヘテノ希望ナルコト是レナリ抑モ日華基本條約締結當時ハ今日トハ異ナレル情勢下ニアリタリ即チ(一)當時ハ國民政府還都勿々ノ際ニテ一舉ニ理想的ノ條約ヲ締結スルコトハ困難ナリシコト(二)英米ノ勢力尙殘存シ日本ハ之ニ對抗スル爲中國ニ於テ種々ノ據點ヲ設クル必要アリタルコト(三)日本ノ對華物資要求カ極メテ切實ナリシコト等レナリ然ルニ此等ノ情勢ハ大東亞戰爭ニ依リ著シク變化セリ(一)先ツ中國ノ參戰ニ依リ中日兩國ハ共同ノ立場ニ立チ兩國國民ノ感情ハ恢復シテ歷史上空前ノ親善關係ニ入レリ(二)日本ノ華北駐兵ハ名目ハ防共ナレトモ實質的ニハ防衛ナリ然ルニ今ヤ英米ノ勢力ハ既ニ一掃セラレ中國ト日本トハ生死ヲ共ニスル間柄ニアリ中國國內ノ防共ニ至リテハ中國自身之ニ當ルヲ可トシ蘇聯ノ脅威ニ對シテ共同作戰ニ出ツヘキハ固ヨリ當然ナリ(三)大東亞戰爭以後日本ノ資源ハ豊富

トナリ支那ニ需ムルモノハ僅カニ棉花位ノモノトナレリ即チ基本條約ニ規定シアルカ如キ嚴重ナル規定ハ必要ナキニ至レルモノト考ヘラル。次ニ華北ノ問題ナルカ華北ハ原來半獨立ノ如キ狀態ヲ以テ今日ニ至レリ其ノ茲ニ至レルハ當時ノ實情ト希望トニ基クモノト謂フヘシ(一)實情トハ即チ事變後同地ニ臨時政府組織セラレ國民政府還都後モ其ノ既成事實ヲ存續セシメタルタメ一種ノ特殊狀態ヲ呈スルニ至リシコト是レナリ(二)希望トハ日本側ニ於テ從來華北ノ防共ト經濟合作トニ全力ヲ舉ケサルヘカラサル事情アリタル爲メ一種ノ特殊機構ヲ作り之カ運用ニ便セントノ希望ヲ指スモノナリ

然レトモ一切ハ過去ノ歷史トナリ今ヤ中日兩國ハ宜シク全体的ニ合作スヘキ時期トナレリ殊ニ南北對立ノ狀態ヲ放任スルコトハ兩國國民ノ疑惑ヲ惹起セシムル點ニ於テ面白カラス自分ハ一昨年八月中央公論ニ論文ヲ發表セル際モ華北問題ヲ痛論セルコトアリ重光大使トモ本問題ニ付屢々意見ヲ交換シ大使ハ日本ハ決シテ中國ヲ分割牽制スルカ如キ意思ナシト言ヒ自分モ貴國カ根本的ニカカル考ナキコトヲ確信スルモノナルモ奈何セン現狀ハ中央ト

華北トノ政治、經濟、交通、金融等スヘテ別個ニシテ華北ハ宛然獨立國ノ如キ觀アリ日本ハ此ノ機會ニ宜シク英斷ヲ揮リテカカル疑惑ヲ一掃スヘシ況ンヤ中國ノ參戰ヲ見タル今日人力物力ヲ舉ケテ日本ニ協力スル爲メニハ全國一体トナリ全面的ノ計劃ヲ立ツル必要アルニ於テオヤ、是レ特ニ首相ノ考慮ヲ求ムル所以ナリ

四、日華基本條約ノ締結ト經濟、軍事協定ノ分離

陳 以上自分ハ基本條約改訂ニ對スル輪廓概念ヲ申述ヘ御參考ニ供シタル次第ナルカ具體的内容ニ付テハ今日申上クル意思ナシ

唯基本條約ノ修正ト云フ時ハ國民ヲ刺戟スル惧モアルヘキニ付寧ロ新タニ基本條約ヲ作ルト云フ建前ニテ手ヲ着クル方圓滿ニ進ミ得ヘキカト考フ尙先刻述ヘタル物資ノ問題ハ南方トノ交通關係上遽カニ同地方ノ物資ヲ利用シ得サル實情ニアリ中國ヨリハ當分棉花以外ニモ石炭、糧食等需要ノ急ナルモノアルヘキニ付是等物資ノ供給ニ付テハ基本條約ノ外ニ一種ノ兩國間ニ於ケル戰時物資ニ關スル臨時協定ヲ締結セハ可ナルヘシ駐兵ノ規定ニ付テモ同様ナリ

五、基本條約改訂ノ效果

陳 基本條約ノ改訂ハ如何ナル效果アリヤ、右ニ付テハ充分考慮セルカ今回ノ新政策實施ノ效果ニ顧ルモ條約改訂ノ效果ノ大ナルコトハ贅言ヲ要セサルヘシ殊ニ重慶ノ抗戰陣營ニハ如何ナル影響ヲ與フヘキヤ是レ一大問題ナリ從來自分ハ所謂重慶工作ヲ論議スル度ニ「吾々自身力眞ニ和平地區内ノ民衆ヲ把握シ得ル自信アリヤ此ノ自信ナクシテ重慶側ヲ握ルコトハ到底不可能ナリ」ト言ヒ來レリ正直ニ告白スレハ自分ノ如キ還都以來三年間實ハ心中ニ此ノ自信ナカリシカ參戰後始メテ確タル自信ヲ得タリ吾々カ自信ヲ得ルコトハ即チ逆ニ重慶側カ自信ヲ失フコトナリ曩ノ日華基本條約ハ重慶力來レハ改訂スルト云フ腹ニテ作りシモノナルカ今度ハ重慶ノ來ルト否トニ拘ラス新タニ理想的ノ條約ヲ締結スルコト然ルヘシト考フ以上述ヘタル基本條約改訂問題ハ日本ノ立場ヲモ考慮シ兩國双方ノ利益否東亞ノ立場ニ立チテ考ヘタル結果ナリ東亞ノ新情勢ニ照シ日支關係ヲ更ニ鞏固ナラシメントスル眞情ニ基キ首相ノ御參考迄ニ申上ケタル次第ナリ

六、東條總理ノ應酬

總理 今回中國ノ參戰ヲ契機トシ日華兩國民ノ關係益々親密ヲ加フルニ至レルハ喜ヒニ堪エス參戰ヲ決意シ且ツ之ニ伴ヒ國務ニ盡瘁シツツアル汪主席及國府幹部各位ノ努力ニ對シテハ感佩特ニ深シ其ノ後行政實施上種々ノ苦心ヲ拂ハレツツアルモノト察セラルル處日尙淺キニ拘ラス好結果ヲ擧ケラレツツアルコトハ同慶ノ至ナリ延テ重慶側及共產黨ノ方面ニ迄影響ヲ與ヘ居レリトノ説明ヲ聞キ力強キ限りナリ今後トモ一層ノ努力ヲ期待スルモノナルカ日本トシテモ出來得ル限り協力スル覺悟ナリ日本ノ對華政策ノ轉換ハ其ノ進行ニ伴ヒ日華間ノ條約ニモ觸ルコトトナルヘキ次第ハ御承知ノ通ナリ唯今ハ極メテ根本的ノ條約改訂ノ點ニ觸レタル御話ヲ聞キタル次第ナルカ國民政府ノ意見ヲ代表シタルモノニ非ス個人的ノ意見ナリト言ハレタリ但シ自分ハ之ヲ國民政府要人ノ意見トシテ深く念頭ニ留メ置クヘシ政府ノ内閣總理大臣トシテハ以上ノ如ク答フル外ナキモ吾々ハ同志トシテ現ニ偉大ナル時局ニ直面シ此ノ戰爭ニ勝ツ爲メ最善ノ力ヲ盡ス必要アリ之レカ爲メ古キヲ改メテ行クコト必要トアラハ改ムヘシ要スルニ唯今ノ御提案ハ充分研究スヘシ

政府ノ立場トシテモ斯カル意見カ國民政府ノ要人ヨリ出テタル以上檢討シテ見ルヘシ此ノ際オ互ニ最善ノ結論ニ到達シ戰爭ニ勝チ拔ク爲メニ努力致シタシ尙貴方ニ於テモ更ニ檢討セラレタキコトアリ

(一)大東亞ヲ建設シ大東亞戰爭ノ完遂ヲ圖ルニ當リ蘇聯ノ脅威ヲ前提トシテ考慮スル要アリ即チ日華滿三國ハ牢固タル姿勢ヲ以テ之ニ對處スル必要アリト思惟セラルルカ此ノ點如何

(二)假リニ唯今ノ如キ意見ヲ容レテ新事態ヲ構成セル場合國民政府ノ行政力ハ果シテ全國ニ滲透シ得ル自信アリヤ即チ吾人ハ國民政府力四億ノ民衆ヲ率ヒテ大東亞戰爭ニ寄與セラレ最善ノ努力ヲ盡サレンコトヲ期待スルモノナルカ果シテ可能ナリヤ

(三)基本條約ノ問題ハ日本側ノ立場ヨリスレハ之カ取扱ヲ慎重ニスル要アリ今回ノ新政策ノ實行ニ付テモ國內的ニハ相當ノ困難アリタルカ漸ク之ヲ克服シテ今其ノ緒ニ着キタル所ナリ若シ此ノ問題ヲ中國側ヨリ正式ニ持出サルルトキハ困難ニ逢着スヘシ

乞陳特使ノ答辯

陳 唯今ノ閣下ノオ話ニ對シ簡單ニ申述ヘタシ

(一) 蘇聯ノ問題ハ英米ニ對スルト同様東亞ニ取リテ重大問題ナリ實ハ中國參戰ノ際心中竊カニ期シタルハ對蘇問題ナリ即チ日本ニ協力スルノ途ハ今直チニ南洋等ニ出兵スルコトニ非スシテ他日萬一ノ際蘇聯トノ接觸カ浦潮ヨリ新疆省ニ至レル際ニハ中國ハ全力ヲ擧ケテ日本ト協力セントノ腹ナリ

(二) 國民政府ハ今日迄ハ其ノ治下ノ民衆ノ信賴スラ無カリシ狀態ナリ然ルニ參戰ヲ機トシテ國民ハ始メテ政府ヲ支持スルニ至レリ吾々カ政府治下ノ民心ヲ把握シ得レハ今後之ヲ全國ニ及ホスコトハ決シテ不可能ニ非ス之レカ爲メ吾人モ一層ノ努力ヲ拂フ覺悟ナルコト勿論ナリ

(三) 基本條約問題ニ付中國側ヨリ話ヲ持出スカ如キコトハ絶對ニナシ此ノ點ハ特ニ御安心願ヒタシ本日ハ全ク總理ノ御參考迄ニ自分ノ意見ヲ申上ケタルニ止リ假リニ之ヲ實行スルトスルモ日本側ノ自發的措置トナシ其ノ時期、方法等ハ總理閣下ニオ任せスル譯ナリ尙中國側ニ於テハ政府ハ勿論民間ノ輿論界ニ於テモ斯カル論議

(欄外記入)

ヲ持出スコトハ有リ得ス又今日閣下トノ話モ極秘トシテ他ニ漏ラササル様致度キ考ナリ

(清水書記官記)

(付記一)

昭和一八、四、五

對支新方針ノ推進ニ就テ

一、對支新方針ノ齎セル影響

今次帝國政府ノ採レル對支新方針ハ今尙其ノ具現ノ途上ニアルニ拘ラス其ノ内外ニ與ヘタル反響ハ既ニ豫想以上ニシテ特ニ支那國民一般ニ對シテハ極メテ深キ感銘ヲ與ヘ重慶側ノ所謂抗戰意識ヲ著シク減殺セリト推スヘキ理由アリ若シ此ノ新方針ノ趣旨ヲ徹底シ更ニ進ンテ政治、經濟各般ノ施策ヲ遂行スルニ於テハ支那事變ノ解決モ敢テ不可能ニ非スト信セラる

二、對支新方針ニ依ル今後ノ施策

對支新方針ハ政治方面ニ在リテハ支那ノ自主獨立ヲ尊重シ中央政府ノ自強ヲ圖ラシムルヲ眼目トシ、經濟方面ニ在リテハ物資ノ流通、生産ノ增強ヲ圖リ以テ經濟力ノ發

展ヲ期待スルヲ眼目トス之カ爲政治方面ニ於テハ租界ノ還付既ニ實施セラレ治外法權ノ撤廢亦着々之ヲ實行ニ移サントシ經濟方面ニ於テハ敵産ノ移管、物資搬出入取締規則ノ是正等行ハレタルカ右新方針ノ結實ヲ見ル迄ニハ更ニ遂行スヘキ幾多ノ施策アリ

即チ政治方面ニ於テハ從來我方ノ要求シ來ル各地域ノ特殊性ニ再檢討ヲ加ヘ必要ナキモノハ之ヲ解消シ以テ支那ノ內政統一ヲ促進セシムルコト其ノ一ナリ特ニ所謂北支ノ特殊化ニ至リテハ支那國民一般ニ疑念ヲ抱カシメ日支間ニ論爭絶エス重慶側逆宣傳ノ好個ノ材料ナルカ實際上ヨリ見ルモ之ヲ調整セサレハ終局ニ於テ支那ノ統一成ラス中央政府ノ強化亦空言ニ歸シ新方針ノ成果ヲ全フシ難シ、經濟方面ニ於テモ眞ニ生産ノ增強ヲ圖ラントセハ所謂各地域ノ「ブロック」經濟ヲ打破セサルヘカラス、運輸交通ノ一元化、貨幣ノ統一等ハ今後吃緊ノ施策ナリ

三、新方針ノ推進ト日華基本條約ノ改訂

我對支新方針ヲ推進スルニ當リ必然的ニ發生スル問題ハ日華基本條約ノ改訂ナリ蓋シ同條約ハ大東亞戰爭以前ニ締結セラレタルモノニシテ東亞ノ情勢及日支關係ニ一大

轉換ヲ見タル今日之カ改訂ハ當然ノ歸結ナルノミナラス之カ改訂夫レ自身一大意義ヲ有シ之ニ依リ新方針ノ期待スル政治的效果ヲモ舉ゲ得ヘキモノナレハナリ

同條約締結ノ當時ハ英米蘇トノ對抗意識竝ニ支那ノ抗日再燃ノ危惧ニ對スル權益設定ニ急ナル餘リ其ノ堂々タル東亞新秩序建設ノ前文アルニ拘ラス其ノ内容低調且ツ矛盾セル規定ヲ含ミ今次ノ新方針ノ精神ニ背ク所尠ナカラス是レ當時ノ帝國ノ立場上已ムヲ得サルニ出テタルモノナルヘキハ諒トスヘキモ情勢一大轉換セル今日宜シク大膽率直ニ新方針ニ則リタル新條約ヲ締結シ名實共ニ帝國ノ堂々タル立場ト精神トヲ闡明スヘシ若シ夫レ戰爭中ノ軍事的要請ニ至ツテハ前ニ軍事同盟ノ締結ニ依リ遺憾ナク之ヲ充足シ得ルノ途アルヘキヲ以テ新條約ハ直截簡明ニシテ新方針ノ精神ヲ以テ一貫スルヲ要ス

四、所謂支那ノ把握ニ就テ

支那人ヲシテ責任ノ地位ニ立タシメ其ノ創意ヲ活用シ以テ全幅の二帝國ニ協力セシムルハ今次新方針ノ目標トスル所ニシテ是レ大東亞戰爭ニ勝利ヲ博スル不可缺ノ條件ナリ然レ共責任感ノ發生ト創意ノ發揮トハ民族的希望ヲ

與フニ非サレハ斷シテ之ヲ期待シ難シ支那ノ民族的希望ハ他ナシ自主獨立ノ統一國家建設ニアリ世間往々ニシテ支那ニ自主獨立ヲ許シ國內統一ヲ認ムルトキハ他日我ニ反噬スルノ危險アリト憂フルモノアリ是レ思ハサルノ甚シキモノニシテ帝國力大東亞戰爭ニ勝利ヲ博シタル曉支那ノ生存發展ノ途ハ絕對ニ日本ト協力以外ニ無キコト火ヲ睹ルヨリ明ナリ萬一帝國力大東亞戰爭ニ敗北センカ支那ニ於ケル如何ナル權益モ水泡ニ歸シ剩ス所ナカルヘシ要ハ此際一日モ速カニ眞ノ日支協力關係ヲ樹立シ以テ大東亞戰爭必勝ノ立場ヲ獲得スルニアリ

日本ハ宜シク支那ヲ把握スヘシトノ論アリ然レトモ把握ヲ志シテ却テ把握シ得サルニ陥ルコト多シ眞ノ意味ノ把握トハ前述ノ如キ日支關係ヲ樹立シテ不言ノ裡ニ實現スルモノニシテ強權強力ヲ以テ一地域ヲ把握シ一事權ヲ把握スルカ如キハ却テ把握トナラス全體ノ統一ヲ攪亂シ政治上經濟上ノ破綻ヲ招來シ收拾シ得サルニ到ルコト既ニ其ノ例ニ乏シカラス大東亞戰爭必勝ノ地位ニ立テル帝國トシテハ支那全地域全國民ヲ對象トシ民族的連繫ノ一大政策ニ轉進セサルヘカラス今次ノ新方針ノ理想ハ實ニ茲

ニ在リ然ラハ則チ之カ徹底ヲ圖リ一層之ヲ推進シ以テ其ノ有終ノ美ヲ收ムルニ躊躇セサルコト肝要ナリ

（欄外記入）

四、六、

重光大使ヨリ谷大臣ニ手交

（付記二）

昭和十八年四月十四日記

基本條約ニ關スル問題

內 容

一、條約改訂ノ聲明

二、基本條約ノ目的ハ終了セリ

三、新政策ノ推進力英米及「ソ」聯ニ與フル影響

四、北支ノ形勢

五、基本條約改訂ノ機ヲ逸スヘカラス

六、基本條約改訂要項

參 考

一、日華基本條約ノ内容

二、東條總理陳特使會談要録(省略)

一、本年一月九日支那參戰ノ際ニ日本政府ハ聲明書ヲ以テ既往ノ條約ニ付テ改訂ヲ考慮スヘキ旨發表シ右ハ明ニ基本條約改訂ヲ指スモノナリトノ印象ヲ與ヘタルカ右聲明ハ三月十三日東條總理南京訪問ノ際汪主席歡迎宴席上ノ演說ニ於テ之ヲ繰返シ更ニ南京訪問ニ關スル新聞發表(福岡ニ於ケル)ニ依ツテ之ヲ確認セリ

二、然ラハ基本條約締結ノ目的ハ今や達成セラレタリヤ基本條約締結ノ主タル目的ハ之ニ依ツテ國民政府ヲ承認スルト共ニ支那ニ進行中ノ我軍事目的達成ヲ企圖シタルモノナリ、(別紙日華基本條約ノ内容參照)即チ右ハ重慶政權ト對立シテ南京國民政府ヲ建テテ之ヲ中國政府トシテ承認シ支那統一ノ爲メニ武力のニ協力スル目的ヲ有シタルモノナルカ、右ノ形勢ハ昭和十七年十二月八日帝國カ大東亞戰爭ヲ宣言シテ世界戰爭ニ參加セルト共ニ一變シ更ニ昭和十八年一月九日支那自體カ參戰シテ帝國ト共同戰線ニ立ツニ至リテ根本的ニ變化セリ、今日支那ハ單

ニ帝國ノ承認セル自主獨立ノ國家タルノミナラス帝國ノ同盟國トシテ戰友タル地位ヲ執ルニ至レリ、茲ニ於テ日支ノ關係ハ根本的ニ變改シ帝國ハ遂ニ支那ヲ完全ナル對等自主ノ同盟國トシテ取扱フノ決意ヲ表示セリ、之カ爲メ支那ト軍事、政治及經濟上ノ協力ヲ宣言スルト共ニ支那ノ爲メ不平等條約ノ改訂ニ着手シ先ツ租界ノ返還ヲ實現セリ

斯ノ如クシテ基本條約ノ目的ハ既ニ達成セラレタリ、若シ夫レ基本條約ノ規定スル幾多ノ諸規定ニ至リテハ實質上今日不必要ナルカ又ハ無益ナルモノ多ク、若シ今日基本條約ヲ廢棄ストスルモ殆ト失フヘキ何等ノ實益ナキ有様ナリ

然ルニ之ヲ支那側ヨリ見ルニ基本條約ナルモノハ其ノ大部分カ支那側一方の義務ノ負擔ニ終始シ殆ト支那ヲ植民地扱ニセシ不平等條約ノ甚タシキモノトナリ居レリ若シ基本條約ノ不平等ノ形式及内容ヲ廢シテ平等互惠ノ同盟ノ條約ト改變セラルルニ於テハ假令其ノ内容ニ於テ大差ナシトスルモ支那側ノ面目ヲ保持スルコトヲ得テ一層我レト協力ノ目的達成ニ裨益スルコト疑ヲ容レヌ又日本側

カ基本條約ノ抑壓ノ下ニ租界返還等ノ措置ヲ講スルハ無意味ニシテ基本條約存在ノ爲メニ日本ハ租界等ノ返還ヲ行ヒ得ルモノナリト云フカ如キ敵側ノ宣傳ヲ完封スルコトヲ得ヘキ利益ニ至リテハ計リ知ルヘカラサルモノアラシ。

三、對支新政策カ日支共同ノ敵タル重慶側ニ絶大ノ衝動ヲ與ヘツツアルハ勿論、英米側ニ對シ與ヘツツアル反響亦頗ル大ナルモノアリ。蓋シ亞細亞帝國タル英帝國カ亞細亞民族ヲ友トスル我新政策ニ依リテ大打撃ヲ受クルハ勿論亞細亞民族ノ保護者ヲ以テ任スル米國ノ地位ハ之ニヨリテ奪ハルヘケレハナリ。新政策ハ實ニ敵ノ武器ヲ奪ヒテ我カ武器トナスモノナリ。

更ニ又新政策ハ支那ニ於ケル共產軍ノ抗日口實ヲ奪フモノニシテ大局的ニ共產軍ニ打撃ヲ與フルト共ニ更ニ防共協定ノ一員タル支那ヲシテ北支方面ヲ整理セシメ滿洲國ト呼應シテ以テ有力ナル對「ソ」障壁トナラシメ得ル點ハ注意ヲ要ス。若シ新政策ヲ推進シ基本條約ノ規定スル北支特殊性ヲ消滅スルニ於テハ北支ニ於ケル重大ナル經濟危機ハ救ハルルト共ニ蘇聯ニ對スル強力ナル防壁ハ漸

次構成セラルヘシ。

四、而シテ北支ニ於ケル食糧不足ニ基ク今日ノ經濟的危機ヲ此儘放任セハ遂ニハ經濟的崩壞ノ責任ハ日本側ニ歸セラレ共產軍ハ益々勢ヲ得テ新政策ハ恢復シ難キ打撃ヲ受クヘシ、從ツテ此際速ニ此點ニ着眼シテ政治的ニ經濟財政的ニ中北支ノ障壁ヲ撤廢シ基本條約ヲ改訂シ此ノ點ヲ救濟シ、北方ノ衛リヲ堅メサルヘカラス。

五、以上ノ諸點ヲ顧慮シ新政策ノ進行ニ一步ヲ進メ、内ハ我在支機關ノ全文ニ亘ル完全ナル統整ヲ樹立シ、外ハ基本條約ヲ改メテ日支同盟條約トナシ南北ヲ舉ケテ支那統整ニ歸セシメ以テ全的ニ我ニ一致協力セシメ、對英米戰ニ當ルト共ニ、北方ノ衛ニ共同セシムルヲ要ス。此新政策ノ一層ノ推進ハ實質的ニ何等我ニ損失ヲ齎ラサスシテ戰爭遂行ニ至大ナル貢獻ヲナスヘキ性質ノモノナルカ、若シ躊躇逡巡シテ時機ヲ失シ例ヘハ西方ニ於テ「チュニス」ノ撤退等ノ如キ事態發生ニ依リテ實效ヲ逸スルニ於テハ極メテ遺憾トセサルヲ得ス。宜シク時機ヲ逸セス斷行スヘキモノト思考セラル。而シテ其ノ方法トシテハ基本條約ノ如キ一國ノ主權侵害ヲ意味スル形式ヲ廢シ(此ノ點

ハ南方「フィリッピン」及「ビルマ」ニ對シテモ同シ）平等對等ノ同盟條約トナシ同盟條約中ニ基本條約規定ノ軍事上必要ナル條項ヲ保存スルノ方法ヲ可トスヘシ。

六、基本條約改訂要項ハ大要左ノ如シ

一、基本條約ヲ改メテ同盟條約トス。從ツテ同盟條約成立ト共ニ基本條約ヲ廢棄ス。

二、同盟條約ニ規定スヘキ重要ナル事項ハ

イ、日滿華三國宣言及日華共同宣言ノ趣旨特ニ軍事上政治上經濟上ノ協力義務ヲ骨子トシテ極メテ簡單明瞭ニ規定スルモノトス。

ロ、軍事上必要ナル措置ハ右ノ趣旨ニ依リテ何等故障ナク行ヒ得ルモ特ニ必要ナルモノ及軍事ニ關聯スル必要事項ハ特ニ規定スルコトトス。或ハ特定ノ事項ハ軍事機密上祕密トスルコトヲ要スヘシ。

ハ、特定地域ノ特殊性ハ一律之ヲ廢止シ右ノ點ニ付テハ軍事上ノ必要ニ應シ支那側ト協議シテ必要ナル措置ヲ講スルコトトシ然ルヘシ

其ノ他ノ經濟的規定ハ擧ケテ之ヲ整理廢棄シ支那側ノ自發的措置ニ任シテ可ナルヘシ

參考一、

極祕（國家機密）

（昭和十七年十月十五日記）

日華基本條約ノ内容

第一 基本條約關係

第二 協議書類關係

第一 基本條約關係

一

基本條約ハ昭和十四年十二月三日上海ニ於テ日支間ニ作ラレタ日支新關係調整ニ關スル協議書類ト稱スル複雑多岐ニ亘ル取り極メニ基イテ寧ロ其ノ重要部分ヲ引キ拔キテ條約ノ形ニ作ラレタモノテアル。基本條約締結ニ依ツテ國民政府ハ支那政府トシテ帝國ニ依リ正式ニ承認セラレ而シテ今日附日滿華三國共同宣言ニ依ツテ滿洲國モ之カ承認ヲナシタ譯テアル

基本條約關係ノ文書ハ（一）條約（二）附屬文書ヨリ成リ附屬文書ハ（イ）附屬議定書及（ロ）附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員

間了解事項ヨリ成ツテ居ル。尙直接關係ノ文書トシテ日滿華共同宣言ノ存在ハ前述ノ通りテアル。基本條約ニハ附屬祕密協約ト附屬祕密約定トノ外祕密交換公文甲及同乙トカ存在スル

以下其ノ内容ニ付テ説明スル

二

昭和十五年十一月卅日日支間ノ基本條約ハ其ノ前文ニ於テ「兩國相互ニ其本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ以テ東亞ニ於ケル恒久平和ヲ確立シ」云々トノ大目的ヲ宣言シテ居ル。其ノ趣旨ヲ實行スル爲メニ第一條ニ於テ相互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ政治、經濟文化等各般ノ事柄ニ共助スヘキヲ約シテ居リ第二條ニ於テ防共ニ關スル共同動作ヲ規定シテ尙之カ爲メニ民國ハ日本軍ノ蒙疆及華北ノ一定ノ地域ニ駐屯スルコトヲ認メテ居ル。防共ハ從來主義ノ問題トシテ取扱ハレテ居タ問題テアツタカ茲ニ政治軍事上恰モ蘇聯ニ對スル問題トシテ取扱ハレテ居ルノハ注意ヲ要スル第四條ニ於テ治安維持ニ關スル共同責任ヲ規定シテ之カ爲メ必要ノ駐兵地域等ニ關シテハ別ニ協議決定ス

ルコトトナツテ居ル第五條ニ於テハ「從來ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲メ艦船部隊ヲ民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留セシムルコトヲ規定シテ居ル。第六條ニ於テハ經濟提携ニ付テ資源ノ開發通商ノ振興、物資ノ需給及産業、金融、交通、通信ノ復興發達ノ諸問題ニ付テ規定シテ居ル。最後ニ第七條ニ於テ帝國ハ漸次治外法權及租界ノ返還ヲ行フコトトシ中國ハ居住營業ノ爲メ内地開放ヲ行フコトヲ約束シテ居ル

元來基本條約ハ全體トシテ一貫シタル解釋ヲナスコト困難テアツテ特ニ永久的規定ト一時的ノ規定トノ區別力困難ナル。右ハ戰爭下ニ於ケル非常時局ノ際ノ條約トシテ差當ツテ重要ナ事項ヲ摘出シテ作ツタ結果ト認メラルルノテアル。此點カラ見テ右條約ハ一時的若ハ中間的ノ存在トモ見ラレル譯テアル。本條約ノ目的ヲ達成スル爲メニ尙將來所謂協議書類等ヲ基礎トシテ補足的ニ約定ノ締結スヘキコトヲ第八條ニ規定シテアル

三

附屬議定書ハ第一條及第二條ニ於テ戰爭行為續行中ノ特殊事態及其間ニ於ケル事態ノ調整ニ付テ規定シ第二條ニ於テ

戰時終局ノ際ノ撤兵ハ治安維持確立ト共ニ二年以内ニ行フコトヲ規定シ第三條ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル損害補償ト支那難民救濟ニ付テ規定シテ居ルカ何レモ感念上明ニ一時の事項ニ付テ設ケタル取極メテアル

而シテ右附屬議定書規定ノ事項ノ實行ニ關シテハ了解事項ナルモノヲ作成シテ支那側ニ各種ノ公平ナル保障ヲ與ヘテ居ル

四

以上ノ如ク日華基本條約ノ規定ハ實ニ複雜多岐ニ亘ツテ居ルカ右條約ト同日附ヲ以テ發表セラレタ日滿華共同宣言ナルモノハ右條約ノ主旨ニ付テ全般的解釋ヲ與ヘテ居ル點ハ重要テアル。即チ同共同宣言ハ一、主權及領土ノ尊重ニ互惠ヲ基調トスル三國間ノ一般提携就中善隣友好、共同防共及經濟提携ノ實ヲ舉クヘキコトヲ宣言シテ居ルノテアル。獨立自主ノ立場ト互惠平等ノ建前トヲ堅持セルコトハ注目ニ價スル

五

基本條約ニ付テハ祕密取極メカアツテ其中附屬祕密協約ナルモノニ於テ基本條約第五條ニ關聯シ艦船部隊ノ駐留權及

内水航行權ノ供與並華南沿岸ノ特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ協力ヲ行フコトヲ規定シ更ニ廈門及海南島等ニ於テ國防上必要ナル資源開發ヲ約束セシメテ居ル

而シテ附屬祕密協定ナルモノニ依ツテ外交ヤ軍事上ノ協力ニ付テ規定シテ居ル

更ニ又祕密交換公文甲ニ於テ第一蒙疆ニ付第二華北政務委員會及其ノ運用ニ付テ第三揚子江下流地域及新上海ニ付テ第四海南島及附近ノ諸島嶼、廈門第五日本人顧問ノ招聘ニ付テ支那側ヲシテ難解ナル約束ヲナサシメ帝國ノ特殊權益ヲ設定シテ居ル

次ニ交換公文ノ乙ニ於テ戰爭行為繼續期間中其目的完遂ニ付積極的協力ヲナスヘキ義務ヲ中國政府ニ負ハシムルコトヲ重ネテ規定シテ居ル

第二 協議書類關係

一

基本條約全般ノ解釋ニ一層ノ複雜性ト難解性トヲ與フルモノニ「議事錄拔萃」ナルモノカアル。右ハ第十五回正式會議(昭和十五年八月二十八日)ノ議事錄ノ拔萃ノ形ニナツテ

居ル。斯ル方式ニ依ツテ約束セラレタ項目中決議ノ第一ハ基本條約締結ノ基礎的資料トナツタ「日支新關係調整ニ關スル協議書類」(即チ所謂「協議書類」)(昭和十四年十二月三十日上海ニ於テ日支間ニ作製)ノ效力問題ニ付テアツテ右協議書類ハ今後モ效力ヲ存續シ尙引續キ其内容ヲ具體化シ更ニ約定ノ形式トナスヘキコトヲ決議トナシテ居ル次第テアル。要スルニ協議書類ハ今後モ其ノ效力ヲ有シ其内容ニシテ今回約定ノ形トナラナカッタモノハ將來更ニ約定ノ形ニ直ス様ニスルト云フ事テアル。斯クノ如クシテ協議書類ノ内容及地位ハ複雑ナル基本條約關係ノ一切ノ文書ト共ニ相關聯シテ日支ノ條約關係ヲ一層紛糾セシメテ居ルノミナラス基本條約其ノモノヲ寧ロ弱體化セシメテ居ル。議事錄拔萃ノ第二ノ決議ハ基本條約及附屬文書ノ作製セラレタル基礎の原則ヲ示シタモノテ

一、互恵ヲ基調トスル日華ノ一般提携就中善隣共同防共、經濟提携原則ノ設定

二、華北及蒙疆ニ於ケル日華ノ緊密ナル國防上及經濟上ノ合作地帶ノ設定

防共ヲ目的トスル蒙疆ニ於ケル軍事上及政治上ノ特殊地

位ノ設定

三、揚子江下流地域ニ於ケル日華間ノ緊密ナル經濟上ノ合作ノ具現

四、華南沿岸特定島嶼ニ於ケル日華間ノ緊密ナル軍事上ノ合作ノ具現

ノ四項目ヲ舉ケテ居ル。右ハ何レモ條約又ハ附屬文書ニ規定ノアル點テアルカ特ニ議事錄拔萃ヲ以テ此ノ四點ヲ條約締結ノ基礎の原則トナシタ事ヲ決議セルコト條約全體ノ解釋上重要ナル點テアツテ從ツテ其ノ全文ヲ茲ニ掲クルコトトシタ

決議ノ第三ハ條約所定ノ關係ハ日華特有ノ關係テアツテ最惠國約款ノ適用範圍外テアルコトトシテ居ル

決議ノ第四ハ撤兵ハ治安確立ヨリ二ヶ年以内ニ行ハルヘク右「治安確立」ノ認定ハ「社會秩序カ能ク善隣友好的の和平狀態ニ恢復スルニ至レルコトヲ指スモノナルモ日本側ニ於テ治安不安定ニ名ヲ藉リテ故意ニ撤兵ヲ長引カシメントスルノ意思ナキコトノ保障ヲ與ヘテ居ル

決議ノ第五ハ條約第八條ニ依ツテ將來締結セラルヘキ約定トハ軍トノ間ニ締結セラルヘキ軍事協定ヲモ包含セラルヘ

キコトヲ決定シテ居ル

二

已ニ協議書類カ有效ニ存續スルモノトスレハ其内容ニ付テ検討ヲ要スル。其内容中已ニ基本條約及附屬文書ニ取リ上ケラレタモノニ付テハ協議書類ハ此點ニ付テハ單ニ條約等ノ解釋ノ爲メニ役立ツニ過キヌ。問題ハ基本條約關係ニ取リ上ケラレヌ部分ニ付テテアル。

協議書類ハ昭和十四年十二月卅日上海ニ於テ作製セラレ日本文ヲ以テ本文トセラレテ居ル。其ノ目次ハ左ノ通りテアル

日支新關係調整要綱

別紙第一(日支新關係ノ調整ニ關スル基本原則)(一)、

、ハ記者ノ附セルモノ)

別紙第二(日支新關係調整ニ關スル具體原則)

祕密諒解事項

第一、新中央政府ト既成政府トノ關係調整要綱

第二、金融、財政關係事項

第三、經濟關係事項

第四、交通關係事項

第五、揚子江下流地帶ニ於ケル日支協力關係事項

第六、日本人顧問ノ職員招聘、採用關係事項

第七、主權尊重原則實行ニ關スル支那側要望ニ對スル回答關係事項

答關係事項

第八、雜件

三

日支新關係調整要綱本文ハ(一)日支間ニ新ニ國交ヲ調整スヘキコト(二)既成政府ノ辯シタル事項ノ繼承及調整(三)事變繼續中特殊事態ノ存在ヲ承認スルコトヲ宣言シテ居リ

別紙第一日支新關係調整ニ關スル基本原則ハ議事錄拔萃決議ノ二ニ相當シ

別紙第二日支新關係調整ニ關スル具體原則中ニ於テ第一善隣友好ノ原則ニ關スル事項ノ一ニ於テ支那ハ滿洲國ヲ承認シ日本ハ支那ノ領土及行政ノ保全竝ニ主權ノ獨立ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復スルコトヲ約シ、ニ於テ互ニ親善ヲ破ルカ如キ政治、外交、教育等ヲナササルコトニ相互提携ノ外交ヲ行ヒ、文化ノ融合等ニ努メ、日本ハ漸次租界治外法權ノ返還ヲ考慮スルコトヲ約シテ居ル

第二共同防共ノ原則ニ關スル事項中ニ於テ、防共ニ關シテ

三 日華同盟条約の締結

提携協力シニ之カ爲メニ北支及蒙疆ニ於ケル日本ノ駐兵權ヲ認メニ之カ爲メ鐵道、航空、通信、水路等ニ關シ日本ノ軍事上ノ要求ニ應スルコトヲ定メテ居ル

第三經濟提携ノ原則ニ關スル事項中ニ於テハ、北支蒙疆ニ於ケル資源ノ開發ニ關スル協力ニ、産業ニ關スル日本ノ援助ニ、財政、金融ニ關スル日本ノ援助ニ、通商交易ニ關スル協力ニ、交通、通信、氣象ニ關スル協力ニ、新上海建設問題等ヲ定メテ居ル

更ニ第四共通ノ治安維持ニ關スル協力並撤兵ニ關スル事項中ニ於テハ、撤兵完了期ヲ二年トシニ、治安維持ノ爲駐兵スル地域等ニ付テ協議スルコトニ、艦船部隊ノ駐屯權ニ、鐵道等ニ對スル軍事上ノ要求等ニ關シテ規定シ

第五其ノ他ノ事項中ニ於テハ、顧問僱聘ノコトニ、難民救濟ノコトニ、日本人ノ損害賠償ノコト等ヲ定メテ居ル

以上ノ各項ハ何レモ基本條約ノ各條ニ摘出セラレテ居ルモノカ多イ從ツテ協議書類ノ之等ノ部分ハ基本條約文ヲ解釋スル上ニ之ヲ點檢スルコトカ必要缺クヘカラサル次第デア

四

祕密諒解事項ノ第一項目タル新中央政府ト既成政府トノ關係調整要領ノ中第一北支臨時政府トノ關係規定ニ關シテ注意スヘキ點ヲ左ニ摘記スル

ハ、北支ノ定議トシテ北支トハ內長城線(義)(ヲ含ム)以南ノ河北省及山西省並ニ山東省ノ地域トストセラレテ居ル。從ツテ蒙疆ハ內長城線(ヲ含マス)以北ノ地域トナル譯テアル。ニ臨時政府ノ後ニ北支政務委員會ナルモノヲ設クルコトトシ、其ノ權限及構成ニ關スル難解ニシテ複雑多岐ナル規定ヲ設ケテアル。

第二次ニ維新政府トノ關係規定ニ於テハ右政府解消ニ依リテ生スル過渡的規定ヲ初メ楊子江下流地區ノ經濟合作機關(揚)(經濟協議會)及新上海問題ヲ掲ケ

第三更ニ蒙古自治政府トノ關係ニ付テ規定ヲナシ、之ニ對シテ高度防共自治權ヲ認メシメ

第四廈門ニ特別市設置

第五海南島及附近ノ島嶼ヲ一省トナシ軍事及經濟提携ニ關シ日支協力スヘキヲ規定シテ居ル。

諒解事項第二金融財政關係ニ於テハ、聯銀ニ、華興商業銀行ニ、軍票ニ付テ規定シ

諒解事項第三經濟關係ニ於テ合辦會社ニ關スル措置ニ付テ帝國大使ト協議スルコト及貿易統制ニ關シ規定シ

諒解事項第四交通關係ニ於テ航空鐵道海運水運及通信ニ關シ日支協力等ニ付テ規定シ

諒解事項第五揚子江下流地帶ニ於ケル日支協力關係事項ニ於テ所謂日支經濟協議會及上海特別市其ノ他ニ關シ支那側ノ執ルヘキ措置ニ關シテ混雜セル規定ヲシテ居ル。

諒解事項第六日本人顧問、職員招聘採用關係事項ニ於テ技術顧問連絡專員ノ招聘ニ付テ更ニ又教授教官ノ招聘ニ付テ甚タシク多岐ニ亘リテ規定セラレテ居ル。

諒解事項第七主權尊重原則等ニ關スル中國側要望ニ對スル回答關係事項ニ於テ政治ニ付テハ

第一、中央政府ハ政治顧問ヲ招聘セス協議連絡ヲ要スル事項ハ日本帝國大使ヲ通シテ行フコトヲ明定シ

第二、日本軍ト省政府、特別市政府、縣政府、普通市政府等トノ協力ニ付テハ互ニ交渉專員ヲ通シテ行フコトトシ

第三、各縣宣撫班ハ速ニ解散スルコトヲ規定シ
次ニ軍事ニ付テハ

第一、支那復歸軍隊ノ駐屯區域

第二、第三國人タル軍事專門家招聘ニ付テハ日本側ト連絡スルコト

第三、兵器製造工場ニ技師招聘ニ關シテ規定シテ居ル。
更ニ經濟ニ付テハ

第一、軍管理ノ工場、鑛山及商店ノ移管ニ關シテ

第二、日支合辦事業ノ調整整理ニ付テ

第三、合辦事業ノ出資割合

等ニ關シ重要ニシテ詳細ナル規定ヲナシ其大部分ハ基本協定中ニ包含セラレテ居ル。

更ニ又財政ニ關シテハ支那財政ノ獨立尊重ヲ約シ

第一、稅收機關

第二、上海海關收入及關稅剩餘

第三、關稅收入保管

第四、外債及賠償金ノ基金保管

第五、統稅

第六、鹽稅

ニ付テ極メテ重要ナル約束ヲ規定シテ居ル。

最後ニ「其ノ他」ニ於テ

一、長江開放

三 日華同盟條約の締結

二、京滬鐵道通行證首都停車場ノ検査
ニ付規定カアル。

諒解事項第八雜件中ニ於テ更ニ前記諒解事項中

第一、諒解事項第一既成政府トノ關係中ノ規定事項

第二、支那軍隊及警察ノ配置及之ニ對スル武器ノ供給

第三、諒解事項第六顧問招聘ノ問題

第四、厦門

第五、海南島等

ニ關シ更ニ規定ヲナシテ居ル

(付記二)

昭和十八年四月十八日記

日華同盟條約案

大東亞憲章

條約締結ノ趣旨

一、本條約ハ我カ公正ナル戰爭目的ノ表示ニ依リ大東亞諸國
ノ自發的協力及結合ヲ計ルヲ目的トシ

二、戰後ノ抱負ヲ宣明シ敵側ノ策動ヲ完封シ併セテ敵ノ武器

ヲ奪フヲ我ニ於テ之ヲ利用セントスルモノナリ

三、國內ニ對シ我戰爭目的ヲ明示シ將來ニ對スル國民ノ大責
任ヲ自覺セシメ戰爭完遂ノ精神ヲ喚起セントスルモノナ
リ

四、本條約ハ大東亞機構建設憲章ノ實體ヲナスモノニシテ共
榮圈內各國(日、滿、華、泰、ビルマ及比國)カーツノ共
同機構ヲ作り定時若ハ隨時ニ東京又ハ其ノ他ノ地ニ於テ
會同シ戰爭遂行上及今日ヨリ平和時ニ於ケル共力ニ付テ
協議スルノ組織ヲ成立セシメントスルモノナリ

五、從ツテ本條約ハ平等衡平ノ建前ヲ堅持シ帝國ノ大東亞共
榮圈ノ指導者タルコトハ事實問題トシテ苟モ表面ニ現ハ
ササルコト得策ナリトス

六、從來ノ用語中例ヘハ道義ニ基ク新秩序ノ建設又ハ、、
、ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシムル云々ノ如キ相手方ニ疑
惑ヲ起サシムル字句及感念ハ之ヲ排スルヲ得策トセリ

條約締結ニ關スル注意

一、本條約ハ寧ロ成ルヘク速ニ遅ク共六月末直ニ交渉調印ヲ
終ルヲ可トス

ニ、調印後成ルヘク速ニ第一回ノ兩國首腦部會同ヲ東京ニ於テ開催スルコト可然シ

三、本條約ハ日華間ニ交渉ヲ纏メ調印前滿洲國及泰國ニ内示

シ調印後滿洲國及泰國ト同様ノ條約ヲ締結ス

尙將來成立スヘキビルマ及比國トモ同様ノ條約ヲ締結シ

茲ニ大東亞地域ニ於ケル國際機構ヲ建設スルコトトスヘシ

條文

日華兩國ハ大東亞地域ニ於ケル各國ト協力シテ之等諸國ノ獨立及自主的發展ヲ意圖シ大東亞ニ於ケル恒久的の平和ヲ樹立シ共同ノ建設ヲ實現スル目的ヲ以テ及此目的達成ノ爲メ有ユル障害ヲ除去センカ爲メ左ノ通り約定ス

第一條

日華兩國ハ相互ノ立場ヲ尊重シツツ大東亞戰爭遂行ノ爲メ戰時ニ於テ軍事上政治上及經濟上有ユル協力ヲ行フヘク之カ爲メ常時必要ナル協議ヲ行フヘシ

尙右ノ爲メ必要ナルニ於テハ適時業務上ノ取極ヲナスヘシ

第二條

軍事行動繼續中ハ陸海空ニ於テ軍事當局ノ必要トスル軍事

の措置ハ許容セラルヘク、右ニ關スル新ナル事項ニ付テハ豫メ兩國政府間ニ於テ相互ニ協議セラルヘシ

第三條

必要ナル協力業務ニ付テ審議スル爲メ兩國政府ハ關係國代表ト共ニ定期若ハ隨時會合ヲ行フヘシ

第四條

前條會合ニ於テハ戰后ニ於ケル大東亞各國ノ「平等の」自主的發展竝大東亞ニ於ケル平和安定ノ維持、防衛及共同ノ建設ニ關スル各般ノ事項ニ付協議行ハルヘシ

第五條

締約國ノ一國力第三國ト交戰狀態ニ入ル場合ニ於テ他ノ締約國ハ直ニ之ニ協力シ同様交戰狀態ニ入ルヘシ

第六條

本條約ハ日華基本條約ニ代リテ實施セラルヘク、右基本條約ハ之ヲ廢棄ス

~~~~~

139

昭和18年7月12日

畑(俊六)支那派遣軍總司令官  
汪兆銘主席 } 会談

# 南京国民政府側より日華基本条約改正の希望

表明について

付記 昭和十八年七月十三日付、永井(八津次)大佐

作成

「汪主席ヨリ東條總理へノ傳言」

七月十二日總司令官、汪主席會談ノ際主席及陳、周ノ  
條約改正ニ關スル希望ノ私的意見

昭和一八、七、一二

於汪公館 永井大佐

主席

經濟提携及駐兵ノ問題カ條約改正ノ重點ト思考シアリ而  
シテ右ハ大東亞戰爭後著シク趣キヲ異ニシ中國トシテモ  
大東亞戰爭ニ勝タナケレバ中國ノ幸福ハナキヲ以テ大東  
亞戰必勝ノ爲中國ハ全力ヲ舉ケテ日本帝國ニ御協力セネ  
ハナラス

之レカ爲ニハ經濟問題ノ解決ヲ先決トシ全國一丸トナツ  
テ經濟力ヲ發揮シ得ル如クナルコトヲ希望スルモノナリ

又駐兵ノ問題ハ戰爭間ハ中國トシテ之ヲ云爲スヘキ問題  
テナク殊ニ重慶カ米英ト一諸ニナツテ戰ツテキル今日ニ  
於テ益々然リナルモ戰爭後ハ何トカ解決シテ頂キ度イト  
考ヘアリ

周佛海

條約改正ノ御參考トシテ一ツノ例ヲ舉ケルト蒙疆ハ高度  
ノ自治性ヲ與ヘルトイフ事ニナリアルモ事實ハ獨立國ト  
ナリアリ年號、國旗、銀行等ニツイテモ訂正ヲ要スルモ  
ノアリ

要スルニ條約改正ハ精神ノ點カ重要テ日華基本條約締結  
ノ際ハ陶季聖、高宗武カ條約ノ内容ヲ暴露シテ吾々ヲ賣  
國奴ト嘲ツタ歴史モアリ殊ニ其ノ宣傳ノ中ニ

「コノ條約ハ北ハ蒙疆ヨリ南ハ海南島、上ハ氣象ヨリ下  
ハ國防資源迄全部日本ニトラレタ」ト言ヒアリ

本件ハ吾々ノ尤モ苦慮ノ存スル所ナルヲ以テ條約改正ノ  
際日本側ノ御勇斷ヲ望ンテ已マサル次第ナリ

陳公博

條約改訂ノ問題ハ色々アルカ兩國ノ決心カ第一ニシテ問  
題ヲ解決スルノ決心ナクシテ其場胡麻化シノ外交的儀禮

式ノヤリ方ハ避クヘキナリ

一例ヲ舉ケルト華北政務委員會ノ機構ノ問題ニシテモ曾テ黃郛ハ日本ニ應對スル急場ノ對策トシテ之ヲ設ケ眞ニ中日ノ爲華北ノ問題ヲ解決スルノ決意ニ基イテツクラレシモノニアラサルナリ

現在臨時政府ヲ解消シテ華北政務委員會ヲツクラレタ日本側ノ考ヘ方ニモ中國ニ應對スル爲ニ設ケラレタル感シアリ

蒙疆ノ問題モ自治ヲ許ス事ハ國民黨ノ綱領ノ一ツテアツタカ當時仲々自治ヲ許サナカツタ、ソレハ民國十六年（昭和二年）國民黨カ共產黨ト分裂セル時「ソ」聯トノ關係逼迫セル爲果シテ蒙古ニ自治ヲ與ヘテ安心ナリヤトノ心配モアリ蒙古ノ人口、文化、政治能力等ヨリ見テ「ソ」聯ニ具ヘル爲遂ニ自治ヲ延ハス事トナリシモノニシテ現在モ十九縣ノ漢民族ヲ蒙古人カ統治スル事ハ能力ニ於テモ困難テアリ殊ニ「ソ」聯トノ關係萬一ノ事態トナラハ日本トシテモ蒙古ノ自治ニ就テハ同様ノ心配アリト思フニ付之ハ自分個人ノ考ヘナルモ條約改正ノ際ハ蒙疆ノ事モ考ヘ直ス要ナキヤト思料シアリ

（右ノ發言ニ對シテハ汪主席ヨリソレハ戰後ノ問題ニシテ現在日本ハ米英擊滅第一主義ニ集中シアルヲ以テソノ心配ナカルヘシト附言ス）

### （付記）

汪主席ヨリ東條總理ヘノ傳言

（一八、七、一三 於汪公館 永井大佐）

一、大臣閣下カ臨時議會ニ於テ基本條約ノ改訂ノ事ヲ言ハレシカ之ハ自分等カ今迄心ニ思ツテキテモ口ニ出セナカツタ事ニシテ之ヲ言明サレタ事ハ感謝ニ堪ヘナイ

條約改訂ニ付テハ基本協定第四、第五、第六ノ三ヶ條ニ就テ御考慮ヲ願ヘレハ幸甚ナリ

第四、第五條ハ駐兵ニ關スル問題ナルモ之ハ大東亞戰爭後ニ解決シテ頂ケレハ結構ナリ

第六條ハ經濟提携ノ事ナルモ出來得レハ中國ノ國防資源ハ勿論日本ノ爲ニ喜ンテ提供スルモ中國ノ爲ニ利用出來ル如ク條文ノ修正ヲ願ヒ又中國ノ民族資本ニテ資源ノ開發ヲ行ヒ得ル様御考慮ヲ願ヘレハ幸甚トスル所ナリ

以上ノ精神ハ決シテ中國ノ利己的ナ立場カラ希望スルモ

ノニアラスシテ今ヤ中國ノ獨立自主ナル意味ハ大東亞戰  
後全ク考ヘ方ヲ異ニスルニ至レルモノニシテ即チ東亞共  
榮圈內ノ國家トシテノ獨立ヲ希求スルモノニシテ國防資  
源ノ開發モ中國自體ノ爲ニ利用シ中國力復興スルコトハ  
結果ニ於テ東亞共榮圈ノ力トナリ日本ト同一戰線ニ立チ  
得ル前提ヲナスモノナリ

ニ、駐兵ニ關スル主席ノ詳細ノ意見左ノ如シ

大東亞戰爭後ノ駐兵ハ斯クノ如キ狀態ニアルヘシトイフ  
事ヲハツキリ示シテ頂キ度シ

而シテ基本協定第三條第二項ノ防共ニ關スル駐兵ハ期限  
附ニテ而モ環境ノ如何ニヨリテ變化スヘキモノナルヲ以  
テ一應ノ理由アルニヨリ日本側ノ意向ニヨリテハ自分ト  
シテハ現條約ヲ強ヒテ修正スルノ要ナシト考ヘアリ  
即チ期限ハ防共協定ノ期間ニシテ環境ハ「ソ」聯ノ態度  
ニヨツテ變化スヘシ

第四條ハ元來全面和平實現セサル爲ノ駐兵ニシテ理由アリ  
但シ第四條ニハ附屬議定書カアリテ二年以内ノ條件アリ

コノ一條ハ重慶カ全面和平ヲ受諾スレハ必要ナクナル

性質ノモノナルモ現在大東亞戰爭以來重慶ハ英米ト共ニ  
日本ニ參戰シアルヲ以テコノ儘ノ狀態ニ於テハ撤兵ノ問  
題ハ起リ得サルヘシ尤モ重慶カ英米陣營ヨリ離レルトイ  
フ事ニナレハコノ撤兵ハ解決スルモ然ラストスレハ（而  
モ英米ヨリ離レサル公算多シ）本條文ハ死文ナルヲ以テ  
大東亞戰爭後ノ新情勢ニ即應スル如ク適當ナル文句ノ修  
正ヲ願ヘレハ解決シ得ヘシト考ヘアリ

第五條ハ現政府カ條約締結以來最モ指彈攻撃ヲ受ケタル  
條項ニシテ全國民カ最モ失望シタル規定ナリ即チ本條項  
ハ日本カ永久ニ中國ニ駐兵スルトイフ感シヲ抱カシメタ  
ル條項ニシテ特ニ之ヲ非難スルモノハ第五條ハ南京條約  
以來ノ最モ屈辱ノ不平等條約ト言ヒアリ尤モ大東亞戰爭  
前ハ英米ノ勢力モ亦中國ニ存在セル關係上日本ニノ駐  
兵權ヲ放棄シテ撤去ヲ希望スルコトハ一應理由トシテ成  
立セサルモ今ヤ情勢ハ變化シ英米ノ勢力ハ中國ニ存在セ  
サルニ至レルヲ以テ日本ノ撤兵モ可能ト言ヒ得ヘシ

又本條ニ駐兵ノ地區、期限、數量等ノ規定ナキヲ非難ス  
ルモノモアリ之ニ對シテハ自分ハ常ニ吾々ノ努力如何ニ  
ヨツテ目的ヲ達成シ得ルモノト説明シアルモ現在此條文

ヲ改訂シテ中國ノ努力如何ニヨツテハ條約ノ輕減（日本ノ撤兵）カ可能ナリトノ意味ニ修正シテ頂ケハ大ニ勇氣カ出ルト思フ

何レニシテモ第五條ハ最も重要ニシテ若シコノ條項ヲ削除願ヘレハ不平等條約ノ跟跡ヲ除キ得テ理想ト考ヘル次第ナリ

（尙主席ハ本條項ハ日本海軍ノ問題カ主ナルヘク當時ハ大東亞戰爭ニ備ヘルコトカ主ナル理由ナリシ事モ良ク了解シ得ルモ戰後英米ヲ屈服サセレハ情況ハ全ク變ルノテハナйкаト考ヘアリト附言ス）



140 昭和18年9月18日 大本營政府連絡會議決定

### 「日華基本條約改訂條約締結要綱」

● 日華基本條約改訂條約締結要綱

#### 一、改訂ノ目的

對支處理根本方針ヲ徹底具現シ以テ支那問題解決ノ爲必要ナル政略態勢ヲ強化スルニ在リ

#### 二、條約改訂ノ時機

條約改訂ノ日本側ニ於ケル準備ハ九月中旬迄ニ之ヲ完了スルコトヲ目途トシ爾後好機ヲ捉ヘ改訂ヲ實施ス

#### 三、條約内容ノ檢討

新條約ハ前記改訂目的ニ照シ日華基本條約及其ノ附屬ノ諸取極ニ代ハルヘキ條約ヲ以テ日華新關係ノ要旨ヲ簡潔ニ明示ス

戰爭間ニ於ケル兩國ノ戰爭完遂ニ付テノ協力關係ハ日華共同宣言ニ依ルモノトス

#### （一）軍事關係事項ノ處理

戰時中ニ於ケル駐兵ハ日華共同宣言ニ依ルモノトシ戰後ニ於ケル大東亞防衛上執ルヘキ措置ニ關シテハ新條約ニ於テハ特ニ律セザルモ戰後別途協議ス

#### （1）駐兵權

（イ）華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯（基本條約第三條）、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯（基本條約第四條）竝ニ艦船部隊ノ駐留（基本條約第五條、附屬祕密協約第一條）等防共、治安、慣例等ニ基ク駐兵權ハ之ヲ要求セス

（ロ）北清事變最終議定書ニ基ク駐兵權ハ之ヲ拋棄ス

(2) 撤兵

支那ニ於ケル全面和平克復シ重慶政府トノ交戦状態終了シタル時ハ完全ナル撤兵ヲ斷行スルコトヲ明示ス但シ全面和平後依然大東亞戦争繼續スル場合ニ於テハ日華共同宣言ニ基キ戦争完遂ノ爲ノ軍事協力ヲ確保ス

(3) 駐兵間ノ軍事要求權ト便宜供與

駐兵權ヲ要求セサル以上附屬祕密協定第二條竝ニ祕密交換公文甲第二ノ甲及第三ノ五ノ規定ハ當然之ヲ必要トセス戦争期間中必要ナル軍事上ノ要求及便宜供與ハ日華共同宣言ニ依ルモノトシ現實ノ軍事的諸要請ニ對シテハ支障ヲ及ホス如キコト無カラシム

(4) 軍事顧問

中國側ノ要請ニ基キ派遣スルコトトシ特ニ條約ニ於テ律セサルモノトス

(二) 各地特殊性ノ處理

軍事上乃至經濟上緊密ナル合作ヲ要スル特殊地帶トシテ制約シアリタル蒙疆、華北、揚子江下流地域及華南沿岸島嶼ニ關スル事項ハ之ヲ廢止シ各地別ニ之ヲ約定

スルコト無シ

(イ) 戦争期間中ノ軍事上ノ諸要請ニ關シテハ三ノ(一)ノ(3)ニ依ルモノトス

(ロ) 重要國防資源ノ開發利用ニ關シテハ一般經濟提携ノ一部トシテ律ス但シ戦争期間中ノ對日經濟協力ニ關シテハ經濟開發、交通、通信及通貨等充分ニ經濟寄與ノ實體ヲ確保シ概ネ現状ニ從ヒ戦争完遂ニ遺憾ナカラシム

(ハ) 政治的特殊性 戦後支那側ノ内政問題トシテ處理セシムルモ戦争期間中ニ於ケル調整ニ付テハ帝國ノ軍事上及經濟上ノ諸要請ニ障害ヲ與ヘサル爲現状ニ急激且廣汎ナル變化ヲ與フル如キコト無キモノトシ差當リ對支處理根本方針ニ基キ豫期シアル調整ヲ目途トス

(三) 經濟關係事項ノ處理

兩國ハ互惠ヲ基調トスル緊密ナル經濟提携ヲ行フ如ク律シ特ニ戦争期間中ニ於ケル重要資源ノ開發利用ニ關シテハ充分帝國ノ要請ニ應セシム

(四) 經濟的調整事項ノ處理

特殊事態ノ調整ハ(附屬議定書第一條第二項)及臨時政府、維新政府等ノ辨シタル事項(附屬議定書第二條)ノ調整ニ關シテハ戰後新條約ノ趣旨ニ基キ根本的ニ調整ノ加ヘラルヘキハ當然ナルモ戰爭期間中ハ日華共同宣言ノ本旨ニ照シ軍事上經濟上ノ諸要請ニ支障ヲ與ヘサル様差當リ對支處理根本方針ニ基キ豫期シアル調整ヲ目途トス

(五)善隣友好及大東亞ノ建設

善隣友好ニ關スル事項ハ現行條約ノ趣旨ヲ存置シ更ニ大東亞ノ共同ノ建設ニ對スル協力ニ付律シ置クモノトス

(六)其他ニ關スル事項

(1)一般顧問及職員ニ付テハ軍事顧問ニ準スルモノトス  
(2)外交事項(附屬祕密協定第一條、議事錄拔萃第三條)及文化提携(條約第二條)ハ善隣友好關係ニ基ク一般提携事項ノ一部ト見做シ特別ニ規定セス

(3)治外法權(條約第七條)、損害補償及難民救濟(議定書第四條)ニ付テハ規定ヲ要セサルモノトス

備考

從來現地ニ於テ支那側トノ間ニ取極メタル事項ニ付テハ成ルヘク速ニ中央ニ於テ一括調査ノ上同一歩調ヲ以テ調整ス

141

昭和18年10月9日

重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約締結交渉開始につき訓令

本省 10月9日後3時10分発

第二四四號(極祕、緊急)

一、貴官ハ往電第二四五號日本國中華民國間同盟條約案ヲ中華民國政府ニ提出セラレ同國政府トノ間ニ至急案文ヲ妥結セラレタシ

二、當方ニ於テハ大東亞會議開催等ノ考慮モアリ至急樞密院ノ手續ヲ終リ本月中ニ本條約ノ調印ヲ了シタキ意向ナリ  
三、本條約説明ハ往電第二四七號ノ通右ニ依リ可然先方ニ御説明アリタシ

大東亞省ト協議濟

142

昭和18年10月9日

重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約案及び附属議定書案文案通報

本省 10月9日午後5時30分発

第二四五號(緊急)

一 同盟條約

日本國中華民國間同盟條約

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自由獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段ヲ講スヘシ

第二條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スヘシ

第三條

日本國及中華民國ハ互恵ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フヘシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ラルヘキモノトス

第六條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日

ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各一通ヲ作成ス

附屬議定書

本日日本國中華民國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全

權委員ハ左ノ通協定セリ

## 第一條

日本國ハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタル  
トキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スヘ  
キコトヲ約ス

日本國ハ北津事變<sup>(清カ)</sup>ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク  
駐兵權ヲ拋棄ス

## 第二條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日ニ於テ日

本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ成作ス

## 二、交換公文

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名  
スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣  
旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復  
シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根

本のニ調整セラルヘシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間  
ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行  
フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致  
候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國 年 月 日ニ於テ

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相  
成敬承致候

本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當リ本官  
ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ  
趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和  
克復シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據  
シテ根本的ニ調整セラルヘシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國  
間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整

ヲ行フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希

望致候

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日 ニ於テ



143

昭和18年10月9日

重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約案に関する説明

本省 10月9日後10時発

第二四七號(緊急)

往電第二四五號ニ關シ

本件條約説明左ノ通り

一、前文ニ於テ兩國政府ハ兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ固キ決意ヲ以テ本條約ヲ協定セル旨ヲ定ム

ニ、第一條ニ於テハ兩國間ノ本然ノ善隣友好關係ヲ規定ス本

條ハ日華基本條約第一條ニ相應スルモノニシテ同條ヲ簡

潔ニ書改メタルモノナリトス

三、第二條ニ於テハ兩國カ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互

ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スヘキ旨ヲ規定ス

本條ハ本同盟條約ノ同盟義務ノ核心ヲ爲スモノニシテ兩

國ノ大東亞ノ建設及大東亞ノ安定確保ノ爲ノ緊密ナル協

力及援助義務ヲ定メタルモノナリ

四、第三條ニ於テハ兩國間ノ經濟提携ヲ規定ス本條ハ日華基

本條約第六條ニ相應スルモノニシテ經濟提携ノ原則ヲ簡

潔ニ規定セルモノナリ

五、第四條ニ於テハ本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當

該官憲間ニ協議決定セラルヘキ旨規定ス

六、第五條ニ於テハ基本條約及附屬文書ハ一切本條約ニ依リ

代ラルヘキコトヲ明カニス

廢棄セラルヘキ文書左ノ通

(一)公表セルモノ

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約

附屬議定書

附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

(二)公表セサリシモノ

附屬祕密協約

附屬祕密協定

祕密交換公文(甲)

祕密交換公文(乙)

昭和十五年八月二十八日第十五回正式會議議事錄拔萃

日支新關係調整ニ關スル協議書類

尙基本條約ト同時ニ調印セラレタル日滿華共同宣言ハ素

ヨリ其ノ效力ニ影響ナシ

七、附屬議定書第一條ニ於テハ日本國ハ兩國間ノ全般の平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スヘキコトヲ約スルト共ニ北清事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄スル旨ヲ定ム

本條項ハ基本條約附屬書第三條ニ相應スルモノニシテ之トノ相違點ハ(イ)防共上(ロ)治安上及(ハ)約定上ノ駐屯ノ留保ナキコト等ナリ

八、交換公文ニ於テハ現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項

(例ヘハ戰爭遂行ニ伴フ特殊事態及臨時、維新政府ノ辨シタル事項等ニシテ未タ調整セラレサルモノ)ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般の平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラルヘキコト竝ニ戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトスル旨中國側ヨリ照會ヲ發シ之ニ對シ我方トシテ同意ナル旨返答スルモノトス

本交換公文ハ基本條約附屬議定書第一條及第二條竝ニ了解事項等ニ相應スルモノニシテ之ヲ設クル趣旨ハ一方ニ於テ中國側トシテハ我方カ現狀ノ儘居坐ルニ非サヤトノ危惧ノ念ヲ抱クモノト思惟セラルルヲ以テ我方ノ公正ナル眞意ヲ明カニセントスルモノナリ又他方ニ於テ中國側官民ノ一部カ本條約全體ノ精神ヲ諒解セス只管國權回收ヲ焦慮シ現實ノ事態ニ對シ急激ナル變更ヲ一方的ニ加ヘ得ルヤニ誤解シ若クハ日本側民間當業者邊リニ於テモ急激ナル事態ノ變化アルヤニ誤認シ爲ニ戰爭遂行上缺ク可ラサル經濟開發等ニ支障ヲ生シ乃至ハ日華兩國官民間ニ

紛糾ヲ來ス如キコトヲ防止セントスル顧慮ニ出テタルモノナリ

大東亞省ト協議濟

~~~~~

144 昭和18年10月9日 青木大東亞大臣より
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約案に関する留意点について

本省 10月9日午後10時30分発

第一七二四號(極秘、緊急)

外務大臣發貴大使宛電報第二四四號及第二四七號ニ關シ
日華基本條約改訂同盟條約締結ニ關シ過般大本營政府連絡
會議ニ於テ別電ノ通要綱ノ決定ヲ見タリ右要綱ニ關シテハ
冒頭電報第二四七號條約案説明ノ外特ニ左記諸點御留意相
成度

一、改訂目的ニ付

改訂目的ハ前記要綱ニ記載ノ通ナルカ右ハ我方ノ狙ヒト
シテノ政略目的ヲ示タルモノニシテ固ヨリ其ノ儘支那側
ニ示スヘキモノニアラス貴大使ノ含ミニ止メラレタシ
尙我方カ本件條約改訂ヲ決意スルニ至レル所以ハ敢テ縷

述スル迄モナク貴大使ニ於テ充分御承知ノ通ナルニ付支
那側ニ對シテハ貴大使ニ於テ適宜説明セラレ特ニ帝國ノ
公明正大ナル意圖ニ付認識ヲ深メシメ苟モ帝國ノ弱味ノ
表明ナルカ如キ好マシカラサル誤解ヲ生セシメサル様啓
發セラレタシ

二、改訂時機ニ付

改訂時機ニ付テハ前記要綱決定當時ハ未タ具體的ニ限定
スルコトナカリシモ其後慎重考量ノ結果今般努メテ十月
末日迄ニ締結スル如ク措置スルコトニ大本營政府ノ了解
成リタル次第ナリ

三、條約内容ノ檢討ニ付

甲、戰爭間ニ於ケル戰爭完遂ニ付テノ協力關係ハ日華共
同宣言ニ依ルモノナルコトハ前記要綱ニ明記シ又右
共同宣言適用ノ場合ノ事例ハ要綱ニ(一)ノ冒頭及(2)ノ但
書、(3)ノ後段(イ)ノ(イ)、(四)ノ後段等ニ掲ケアル通ナルカ
右共同宣言ハ戰爭協力ニ關スル基本的取極トシテ我方
ノ重視スル所ナルニ付此ノ點本件條約改訂交渉ニ當リ
特ニ先方ニ念ヲ押シ置カレタシ

乙、各地特殊性ニ關シ各地別ニ特ニ約定スルコトナキハ

前記要綱三ノ(二)冒頭ノ通ニシテ又之カ實際上ノ處理ニ付テハ三ノ(イ)(ロ)(ハ)ニ示シタル通ナルカ特ニ戰爭間ニ於ケル帝國ノ軍事上、經濟上ノ諸要請ニ對シテハ障害ヲ與ヘサル様措置スルノ要アルコト勿論ナルニ付此點ニ付テハ支那側ニ於テ充分納得スル様適宜指導セラレタシ

丙、經濟關係事項ノ處理ニ付テハ前記要綱三ノ(三)記載ノ通ニシテ本件條約改訂後ト雖モ特ニ戰爭期間中ニ於ケル重要資源ノ開發利用等ニ付テノ帝國ノ要請ニ對シテハ支障ヲ及ホスカ如キ結果ヲ招來セサル様留意スルノ要アルコト勿論ニシテ又右ハ前記共同宣言ノ本旨ヨリスルモ當然ノ儀ト思考スル次第ナリ

丁、前記要綱三ノ(四)記載ノ經過的調整事項ノ處理ニ關シテハ從來モ既ニ幾多ノ調整ヲ實行シ來レルコト御承知ノ通ニシテ將來ノ處理ニ付テモ支那側ニ於テ帝國ノ誠意ニ信頼センコトヲ期待スルモノナリ

戊、前記要綱(五)記載ノ大東亞共同建設ニ對スル協力ニ付テハ略同様ノ趣旨ヲ「ビルマ」トノ條約、「フィリピン」トノ條約草案中ニモ插入シアリ大東亞ノ解放及復

興興隆ノ爲ノ大東亞建設ハ大東亞各國ノ共同ノ大事業タルヘキニ鑑ミ今次條約ニ於テ特ニ右ニ關スル條項ヲ設クルヲ適當ト認メタリ

己、治外法權及内地開放ノ件ニ付テハ本年一月九日ノ協定ニ依リ基本條約第七條ノ存置ハ不必要ナレルモノト認メ前記要綱六ノ(3)記載ノ通り定メタル次第ナリ
外務省ト協議濟



145 昭和18年10月14日

在中国谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

日華同盟條約交渉開始に際する汪兆銘らとの
會談内容について

南京 10月14日午前0時00分發
本省 10月14日午前1時25分着

第一六三號(極秘、緊急)
貴電第二四四號ニ關シ

本使十三日汪主席ト會見シ(褚外交部長同席)本使ヨリ政府ノ訓令ニ基キ同盟條約案ヲ提出スル旨前提シ案文ヲ手交セル後條約ノ構成、新條約ト日華共同宣言トノ關係、新條約

ノ締結方提議スルニ至レル帝國ノ眞意立場等ヲ述ヘ次イテ
屢次御訓電ノ趣旨ニ依リ條約、附屬議定書及交換公文ノ逐
條説明ヲ行ヒタル處主席ハ日本ノ絶大ナル經綸ト中國ニ對
スル絶大ナル支援トニ對シテハ敬佩感激ノ至ナリトテ繰返
シ感激ノ意ヲ表シ何レ國民政府側ノ意見ハ十四日ノ最高國
防會議等ニモ諮リ早目ニ申述フヘシト答ヘタリ

次テ今後ノ審議竝ニ國內手續ニ關スル双方ノ段取ニ付話合
タルカ主席ハ十五日ヨリ三日間位ニテ案文ノ妥結ヲ完了シ
ナルヘク日本側十九日ノ閣議ニ間ニ合フ様取計ラフヘク中
國側ハ中央政治委員會ニ於テ決定シ立法院ニ附議スル手續
ヲ要スル處右ハ比較的簡單ナルカ日本側ハ樞密院連絡慎重
ナル手續等比較的時日ヲ要セラルルコトハ良ク了解スルニ
付十月三十日(支那側ニテハ三十日ヲ吉日トシテ三十一日
調印ハ面白カラストス)條約締結三十一日朝刊ニ公表ヲ目
途トシテ進行シテハ如何カト申出テタルニ付本使ハ右段取
リハ大體適當ト思料スルカ政府ニ報告ノ上追テ回答スヘシ
ト述ヘ置キタリ尙主席及外交部長ヨリ新條約、附屬議定書、
交換公文署名者ハ基本條約締結ノ際ト同様國民政府側ハ汪
行政院長トシタキ旨申出テアリ併セテ本件政府ニ報告スヘ

キ旨述ヘ置キタリ就テハ右日取及署名者ニ關シ何分ノ儀折
返シ回電アリタシ

146

昭和18年10月15日

在中国谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

日華同盟条約締結の日本側意向等に関する汪

兆銘への説明振りについて

南京 10月15日午後7時00分発

本省 10月15日午後10時25分着

第一六四號(大至急、極秘)

往電第一六三號ニ關シ

本使ヨリ汪主席ニ對シ説明シタル要點左ノ通り

一先ツ新同盟條約ハ本條約附屬議定書及交換公文ノ三者ヨ
リ成リ曩ニ締結セル日華基本條約及附屬書類ニ代ルヘキ
モノニシテ日華間ノ基本的關係ヲ新ニ律スル劃期的ノ條
約ナル旨ヲ述ヘ之ニ對シテ本年一月九日ノ日華共同宣言
ハ大東亞戰爭繼續中ニ於ケル日華兩國ノ協力關係ヲ規定
シ謂ハハ前者ハ兩國間緩急ノ協力關係ヲ夫々規定セルモ
ノニシテ過般來日華兩當局ニ於テ基本的及臨時的規定ヲ

以テ今後兩國ノ新關係ヲ律シタキ意見ノ交換アリタル經緯ニ副フ旨ヲ述フ

二、帝國カ本條約ノ締結ヲ提議セル眞意トシテ大東亞戰爭以來東亞ノ大勢一變シ初メテ日華兩民族ハ第三國ノ策動ノ爲相爭フノ謂ハレナキニ至レルノミナラス協力共榮シ得ヘキ本然ノ關係ニ復歸セリ之東亞ノ歴史ノ一大轉回ニシテ帝國ハ此ノ情勢ニ即應シ對華新政策ヲ樹立シ着々之カ實踐ニ努力シツアル次第ナルカ其ノ意圖スル所ハ中國ノ自主獨立竝ニ繁榮ヲ圖リ相携ヘテ大東亞建設ノ大業ヲ分擔スルニアリ今回ノ條約ハ即チ右ノ如キ日華新關係ノ最高目標ヲ示セルモノニシテ今後中國ノ内部ニ全面和平實施又ハ大東亞戰爭ノ勝利ハ疑ナキヲ以テ其ノ曉ニハ此ノ理想ヲ完全ニ實現セラルル次第ナリ帝國ハ中國ニ對スル此ノ公正ナル態度コソ嚴肅ナル條約ノ形式ニ於テ世界ニ表明セントスルモノニシテ此ノ態度ト之ニ對スル決意トハ一點ノ疑ナシト信スルモノナルカ右ハ今ヤ中國ニ澎湃タル全面和平ノ氣運ニ對シテモ相當效果アルモノト信スト述ヘ更ニ中國人ノ間ニ於テハ帝國ノ斯ル態度ヲ以テ戰爭ニ弱リタル結果ナルヘシ等誤解スルモノアルヤモ計

ラレサルカ右ハ誤レルモ甚タシキモノニシテ斯カル大膽ナル方針ハ帝國カ必勝ノ態勢ニ立チ必勝ノ信念ニ基イテコソ始メテ取り得ル所ニシテ此ノ點ハ曩ニ主席訪日中ニ充分感得^(セキ)ラレタルモノト察セラルルカ今後モ萬一中國側ニ斯カル誤レル觀察アラハ之カ是正方適當ノ方法ヲ講セラルヘキコトヲ期待スル旨ヲ述フ

三、最後ニ條約ノ内容ニ付テハ曩ニ主席訪日ノ際要點ハ東條

(編註)

總理ヨリ直接述ヘラレタルニ付既ニ御承知ノ筈ニシテ其ノ後種々檢討ヲ加ヘラレツツアルコトト察セラルルカ更メテ説明スヘシト前提シ本條約附屬議定書及交換公文ノ内容ヲ逐一説明シ基本條約及附屬書類ノ廢棄ニ依リ消滅ニ歸スヘキ事項ニ付新舊相照シテ詳細説明ヲ加フルト同時ニ日滿華共同宣言カ依然存續スヘキコトヲ特ニ指摘シ本條約實施後ハ軍事上經濟上ノ協力ハ基本條約等ノ場合ト其ノ根據及性質ヲ異ニシトシテ日華共同宣言ニ基ク戰爭繼續中ノ協力ヲ意味スルコトトナル次第ナルカ其ノ過渡期ニ於テモ日本側ハ決シテ共同宣言ヲ口實ニ必要以上ノ要求ヲナシ又ハ故意ニ現状ノ調整ヲ回避セントスルカ如キ底意ヲ有セス殊ニ全面和平實現後ハ附屬議定書交

換公文所載ノ通り情勢ハ一變スヘキ旨註釋シ置ケリ

編 注 昭和十八年九月の汪兆銘来日については、本書第185文

書を参照。

~~~~~

147 昭和18年10月16日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

汪兆銘より日華同盟条約案の修正事項を提示  
について

南京 10月16日前0時45分発  
本省 10月16日前3時45分着

第一六五號(緊急)

往電第一六三號ニ關シ

十五日汪主席(周佛海、褚民誼同席)ト會談セル處主席ハ先  
ツ本條約ニ對スル根本的考ヘ方ニ付申上ケタシト前提シ先  
般東條總理ハ本件同盟條約ハ東亞ニ於ケル二大民族ノ永久  
の友好關係ヲ律スヘキ基本的ノ條約ナリト謂ハル寔ニ其ノ  
通りナルカ更ニ一方本條約ハ之ヲ公表セル場合重慶側大多  
數ノモノヲシテ文句ノ付ケ様ナク又總ヘテノ者ヲシテ之ヲ

見テ全面和平ニ向ツテ努力ヲ傾注セシムル程ノモノトスル  
コト肝要ナリト述ヘタル後右原則ニ基キ國民政府側ニ於テ  
慎重研究セル結果ナリト前提シ左ノ通り修正希望案及修正  
ヲ求ムル事由ヲ説明セリ

一、條約ノ名稱

同盟ノ二字ヲ削除シ永久友好關係ニ關スル條約又ハ友好  
關係ニ關スル條約トセラレタシ

同盟ノ二字ヲ冠スルトキハ如何ニモ軍事的同盟ノ如キ意  
味ニ解セラレ逆宣傳ヲ受クル惧アリ全面和平工作上面白  
カラスト存ス

二、第二條

互惠ノ上ニ平等ノ二字ヲ加ヘラレタシ

基本條約ニ於テモ平等互惠トナリ居リ今平等ノ二字ヲ削  
除スルトキハ誤解ヲ招クヘシ

三、第四條

全文削除セラレタシ若シ條約ノ規定竝ニ體裁上絕對存置  
ノ要アルニ於テハ少ク共「當該官憲」ヲ削除シ兩國政府  
間トセラレタシ

本條ヲ存スル時ハ別ニ祕密ノ約束アルカ如キ疑惑ヲ招ク

惧アルヲ以テ全文削除ヲ希望スルモ已ムヲ得サルニ於テハ兩國政府間ト改メラレタシ蓋シ當該官憲トスルトキハ如何ニモ中國地方官憲又ハ地方機關ニ細目取極ノ權限ヲ委任シタルカ如キコトトナリ地方官憲カ中央ノ知ラサル内ニ勝手ニ日本側ト細目ナルモノヲ取極メ收拾付カサル破目トナル惧アリ日本側ニ於テハ政府ノ正當ナル委任ヲ受ケスシテ中國側ト取極メヲナスモノハ非サルヘキモ中國ノ現狀ニ鑑ミ懸念セラルル次第ナリ從テ本修正第二案ハ日本側ニ對シ申上クルモノニ非スシテ中國側内部ノ關係ヲ顧慮シテ御願ヒスルモノナリ

#### 四、第五條

本條約及附屬文書ノ署名ニ伴ヒ昭和十五年、〇、〇、〇、其ノ一切ノ附屬文書ト共ニ廢棄セラルヘシト修文セラレタシ

日本政府ノ御趣旨ハ廢棄ニアルヘキヲ以テ明確ニ廢棄トセラレタク「代ラルヘキ」ハ意味明瞭ヲ缺ク惧アリ

#### 五、交換公文

「現ニ中國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ」ノ上ニ「戰爭行為遂行ニ伴フ特殊事態、既成政權ノ辨シタル事項及各

地方ノ特殊狀態等」ヲ加ヘラレタク右不可能ナルニ於テハ少ク共「既成ノ事項特ニ各地方ノ特殊狀態ニシテ」ト改メラレタシ

要修正事項中國政府ノ最モ重キヲ置クハ蒙疆華北及揚子江下流地域等地方ノ著シキ特殊性ノ問題ナリ本件同盟條約ノ締結ハ全面和平實現後ノ事態ニ對シ國民ニ多大ノ希望ヲ與フルモノナルカ單ニ將來ニ對シ希望ヲ與フルノミナラス現實ノ事態ニ付和平ノ曙光ヲ與ヘラレタシ例ヘハ華北ノ特殊性ノ如キハ日ニ日ニ<sup>（字未明）</sup>化シ行ク様ニ感セラ<sup>（揚）</sup>ルル處新政策ニ關スル日本ノ誠意ハ素ヨリ信シテ疑ハサル處ナルモ一般民衆ニ對シテモ既成事項ノ内ニハ前記ノ如キ事項ノアルコトヲ示サレ全面和平ニ至ルカ豫定期間ニ於テモ具體的の事項ニ付逐次所要ノ調整ヲ行ハレ前途ノ希望ヲ益々助長セラレンコトヲ切望ス尙右程度ノ書キ振リナラハ孰レモ基本條約中公表セラレタル條文ニアル文書ニテ又之ニ依リ基本條約カ如何ニモ華北、蒙疆、揚子江、河南ト中國ヲ地域のニ分割セル印象ヲ與ヘタルヲ是正シ得ヘシ

以上中國側ノ主張ニ付本使ハ累次御訓電ノ趣旨ニ依リ逐

一説明ヲ加ヘタルカ中國側ノ立ツテノ希望ニモアリ其ノ趣旨ニ於テ本條約ノ精神ニ背馳スル處ナシト認メラルルニ付テハ出來得ル限り主席ノ希望ヲ達成シ遣ル様篤ト御考慮相成度ク何分ノ儀大至急御回電アリタシ

~~~~~

148

昭和18年10月16日

重光外務大臣より
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約につき原案どおり妥結するよう

交渉徹底方訓令

付記一 昭和十九年、条約局作成、「大東亞諸條約締結

經緯」より抜粋

昭和十八年十月十六日發重光外務大臣より在
中国谷大使宛電報要旨

二

昭和十九年、条約局作成、「大東亞諸條約締結
經緯」より抜粋

昭和十八年十月十七日發在中国谷大使より重
光外務大臣宛電報

本省 10月16日後8時發

第二五七號(至急)

貴電第一六四號及第一六五號及第一六六號ニ關シ

本條約案ニ對スル當方ノ意嚮未タ先方ニ徹底シ居ラサル様存セラルルニ付更ニ充分ニ説明セラレ原案ニテ妥結方此上共御努力相成度

(付記一)

(一)元來日華兩國ガ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲同盟友好ノ關係ニ在ルコトハ基礎觀念ニ於テ當然ノコトト思考シ居リ右ハ本條約ヲ國民政府トノ間ニ締結スル場合ニ於テ特ニ然ルモノニシテ此ノ點ハ大東亞ニ於ケル他ノ諸國ニ於テモ全然異存ナキ所ナリ又先般汪主席來朝ノ際總理ノ説明ニ加フルニ本大臣トノ會談ニ於テモ申述ベ何等問題ノ起ラザリシ所ナリ斯クノ如キ根本問題ニ付今日異議ヲ持出スコトハ右基礎觀念ニ異存アル次第ナリヤ汪主席ノ明瞭ナル意嚮ヲ突キ止メラレ回電有度
尙此ノ基礎觀念ガ正當ナリトセバ本條約ヲ締結發表スルハ中國一般ガ大東亞建設ノ大精神ニ向テ理解ヲ進ムルニ資スベク萬一惡意ノ宣傳アリトスルモ之ニ對抗スルニ努力ヲ以テセバ何等危惧スル要ナシト思考ス單ニ重慶工作

ノ便宜ノ爲ニ(日華共同宣言モ嚴存シ居リ本件ガ右工作ノ爲ニ不便ヲ來ストハ信ンゼラレズ)此ノ根本問題ヲ枉グルコト能ハズ

尙又汪主席ガ和平工作ニ努メタル結果此ノ一點ガ和平ノ成否ニ懸ルモノナルコトヲ最後のニ突キ込メタル上ナレバ我方ニテ考慮セザルコトナキハ貴大使御承知ノ通ナリ然レドモ事態ヲ突キ止ムルコトナク漫然本根本問題ヲ變更シ得ザルコトモ同様御承知ノ通ナリ本件ハ統帥部ノ意嚮モアリ種々ノ經緯ヲ經テ取纏メタルモノナルコトハ貴大使モ熟知セラルル所ニシテ重慶工作成立スル見込判然セザル間ハ變更ノ余地ナキモノナルニ付其ノ點御含ミノ上先方ヲ説得セラレ度

(二)第三條ニ關シテハ先方ノ主張ト意味ニ於テ變リナキモ平等ハ政治的ニ使用シ即チ日華間ノ關係ガ平等ナルコトハ基本條約ヲ改訂シ本條約ヲ締結スル全面的意義ナリ經濟上ノコトニハ互惠ノ文字ヲ使用シ居リ平等關係ヲ基礎トシテ兩國間ニ片面的ニ非ズシテ相互互惠ヲ基礎トスルモノナルコトヲ意味スルモノニシテ經濟關係規定ノ本條ニ於テハ單ニ互惠ノ文字ヲ用ヒタリ

(三)第四條ノ規定ハ細目ニ關スル規定ニシテ他ノ條約ニハ總テ此ノ規定ヲ存シ居リ樞密院關係モアリ其ノ儘トシ置キ度次第ナリ勿論政府ノ承認ナクシテハ當該官憲間ノ協議決定ハ行ハレザルモノナル故何等弊害ナカルベク先方ノ希望スル如キ解釋ノ通説明セラレ差支ナシ

(四)第五條ノ「代ハラルベキモノトス」トノ意味ハ廢棄ト同意義ナリ廢棄條項ナキ條約ヲ新條約締結ニ依リ廢止スル場合ノ我國條約上ノ普通ノ用例ニ依リタルモノナリ

(五)「既成ノ事項」中ニハ勿論先方ノ修正案ノ如キ意味ヲ含ムモノニシテ固ヨリ中國側ノ指摘スル特殊事態ノ如キ條約上ヨリハ一掃セラルル譯ニシテ其ノ調整方法ニ付實際的了解ヲ爲サントスルモノナリ此ノ點モ深く中國側希望ヲ察知シテ立案セルモノニシテ其ノ希望ニ副フ努力ヲ日本側ニ於テモ實際に進ムル意嚮ノ下ニ本交換公文案ノ成立ヲ見タル次第ナリ

之ヲ要スルニ本條約案ハ中國側ノ意ノ在ル所ハ最大限度ニ容レテ立案シタルモノニシテ國內手續トシテモ最モ複雜ニシテ最高ノ決定ヲ經テ漸ク到達シタル所ナリ貴電ノ先方申出ニ依リ變更シ得ザルニ付帝國政府ノ意ノ在ル所

ヲ篤ト先方ニ徹底セシメラレ原案ニ依リ妥結方御努力相
成度

(付記二)

本條約案ニ關シテハ本使ヨリ長時間ニ亘リ委曲ヲ盡シテ説明シ國民政府側亦篤ト之ヲ諒解シ曾テ見ザル眞劍ナル態度ニテ臨ミ當方ヨリ案文ヲ手交セル十三日夕直ニ周佛海等幹部ヲ招キテ討議シ翌日最高國防會議ヲ招集シ審議セル程ニシテ既電ノ先方修正案ハ主席ノ手許ニ於テ之等關係者ノ意見ヲ取纏メ十分檢討ヲ加ヘタル上提議セラレタルモノナル處右ニ對シ實質的ニ之ヲ不可トスル理由無キニ拘ラズ何等ノ修正ヲモ許サズ我方案ヲ其ノ儘押シ付クルコトハ主席ノ政府部内ニ於ケル立場ニ相當面白カラザル影響ヲ與フル惧アリ將又本條約ノ如ク政治工作期ニ極メテ重大ナル影響アルモノニ付テハ申ス迄モ無キ儀乍ラ十分支那人心理ノ機微ヲ察シ特ニ用語ニ重キヲ置ク支那側ノ習慣ヲ參酌スルコトハ此ノ際極メテ肝要ト存ゼラルル次第ナリ

中央ニ於テハ既ニ種々手續ヲ進メラレ之カ修正ニハ重テ煩鎖ナル手續ヲ要スベキコトハ拜察シ餘リアリ又本使ニ於テ

此ノ上トモ御訓令ノ趣旨達成ニ努力スベキハ當然ナルモ此ノ際前記ノ次第篤ト御諒察ノ上再應御詮議相成リ出來得ル限リ支那側ノ修正案ヲ許容セラルルコトト致度絶對許容シ得ザルモノハ議事録又ハ條約發表ノ際ノ當局談ニ含マシムル等ノ形式ニテ中國側ノ意嚮ニ副フ様取計フコトト致度ク何分ノ儀折返シ御回電ヲ乞フ



149

昭和18年10月16日

在中国谷大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

日華同盟条約締結後における対中国宣伝工作

につき意見具申

南京 10月16日後3時30分発
本省 10月16日後4時34分着

K第三七一號(至急)

新條約締結交渉ノ模様ニ關シテハ屢次ノ往電ニ依リ御承知ノ通りニシテ十五日會談ノ際汪主席モ申シ居ル通り今次ノ新條約ハ日支兩民族間ノ永久友好關係ヲ規律スルモノニシテ從テ之カ公表ノ曉ニハ一般民衆ヲシテ本條約ノ精神ヲ體得セシメ勇躍全面和平ノ實現ニ努力邁進スルノ空氣ヲ醸成

スルコト肝要ナル處一方基本條約關係文書ニハ未發表ノモ
ノ多數アル爲單ニ新條約文ノ内容ヲ公表スルノミニテハ新
條約締結ノ意義ハ一般大衆ニ充分徹底シ得ス支那問題解決
ノ爲必要ナル政略態勢ヲ強化セントスル本件條約改訂ノ目
的ニ充分副ヒ得サル感アルヘキヲ以テ豫メ日華双方緊密ニ
連絡ノ上啓發方針ヲ打合せ置キ右ニ基キ條約發表ト同時ニ
啓發手段ヲ講スルコト時宜ニ適スヘク本日高瀬中國側ト折
衝シ得タル印象ニモ鑑ミ支那人ヲ目標トシテノ宣傳啓發振
(日本國內ニ於ケルモノトハ自ラ異ルモノアリテ然ルヘシ
ト存ス)トシテ左記諸點ニ重キヲ置クコト然ルヘシト考ヘ
居レリ

(一) 本件條約ハ日華間ノ劃期的新關係ニ即應スル基本的關係
ヲ新ニ律スヘキ條約ナルコトヲ強調スルコト

(二) 大東亞戰爭完遂ニ關スル日華共同宣言ノ趣旨ヲ強調スル
ノ餘リ中國側ヲシテ日本ハ新條約締結ニ名ヲ藉リ基本條
約ト共同宣言トヲスリ替ヘタリト言フカ如キ誤解ヲ與ヘ
サル様注意スルコト

(三) 本件條約ハ全面和平ノ實現ニ依リ初メテ充分ノ光ヲ發揮
スヘキコト

(四) 一般大衆ヲシテ重慶側抗戰ノ無益ナルコトヲ痛感セシム
ルト共ニ重慶カ米英トノ關係ヲ清算シ亞細亞ニ還ルコト
カ東亞ノ興隆ヲ計ル所以ナルヲ感得セシムルコト

(五) 全面和平實施ニ至ル迄ノ經過的調整事項ノ處現ニ當リテ
ハ從來モ然ルカ如ク今後モ新政策ノ根本精神ニ基キ着々
之ヲ具現シ行クヘキコト(此ノ點支那側ノ最重視スル
コロニシテ例ヘハ周佛海ノ如キハ內約ノ消滅スル結果合
辦會社ノ出資比率ニ關スル標準等如何ニナルヤトノ質問
ヲ發セリ)

(六) 但シ日本側ニ於テ全面和平ノ實現ヲ焦慮シ居ルカ如キ誤
解ヲ與ヘサル様注意スルト共ニ一般大衆ニ對シ全面和平
ノ實現近ニアリト盲信シ重慶側ノ謀略ニ乗セラレ乃至ハ
大東亞戰爭完遂ニ對スル決心ニ動搖ヲ與フルカ如キコト
ナキ様注意スルコト

追テ宣傳方針ニ關シテハ既ニ御研究中ノコトト存スル處
前記諸點ヲモ御參照ノ上宣傳方針ヲ至急決定セラレタシ
其ノ要旨ニテモ可ナルニ付成ルヘク早目ニ御指示アリタ
シ

150

昭和18年10月16日

在中国谷大使より
青木大東亜大臣宛

日華同盟条約締結交渉に際して南京国民政府

側に提出する口上覚について

南大政極祕第一七一號

(接受日不明)

昭和十八年十月十六日

在中華民國

特命全權大使 谷 正之(印)

大東亜大臣 青木 一男殿

日華間同盟條約締結交渉口上覺ニ關スル件

十月十三日汪主席ト日華間同盟條約案ニ付開談スルニ當リ本使ニ於テハ豫メ別添ノ如キ「日華間同盟條約締結交渉口上覺」ヲ作成シ右ヲ基礎トシテ條約締結ノ目的案ノ内容等ニ付詳細説明ヲ加ヘタル次第ナルカ十五日第二回會談ノ際主席ヨリ先般貴大使ノ説明セラレタル所ハ本件條約ノ根本主旨、第五條ノ規定ニ依リ廢棄セラルヘキ基本條約關係文書ノ内容、新條約ト共同宣言及新政策トノ關係等ヲ詳細説明シテ刺ス所ナク右ニテ始めテ新條約ノ精神明トナレル譯ナルカ其ノ際參考トシテ使用セラレタル書キ物ヲ諒解事項

乃至ハ議事録トシテ記錄ニ止ムルコトハ新條約ノ内容ヲ明確ナラシムル上ニ於テ極メテ有意義ト認ムル旨申出アリ、右ニ對シ本使ヨリ右口上覺ハ本使口頭説明ノ資料トシテ作成セルモノニシテ其ノ内容ハ固ヨリ東條總理ト貴主席トノ會談、本使歸朝ノ際ノ中央トノ打合竝ニ本省屢次ノ訓電等ヲ基礎トセルモノナルカ何分ニモ早急ノ間ニ作成セルモノナルヲ以テ其ノ儘ニテハ或ハ十分意ヲ盡ササル點モアルヘク從ツテ右ヲ御希望ノ如キ性質ノ文書トシテ取扱フ爲ニハ本省ノ查閱ヲ經ルヲ要シ到底調印迄ニハ間ニ合ハサルヘク又本件條約以外ニ別ニ公表セサル諒解事項乃至ハ議事録等ノ性質ヲ有スル文書ヲ作ルコトハ今次新條約全部公表ノ主旨ニモ沿ハサルヘシト説明セル處主席モ納得シ、然ラハ自分限ノ事務處理上ノ參考ト致度ニ付十分推敲ヲ加ヘラレタル上追テ寫ヲ送付セラレ度右様取計ヲ得ルニ於テハ極メテ好都合ナリト述ヘタリ

就テハ本件口上覺ノ取扱方ニ關シ十分注意ヲ喚起シタル上「先般口頭説明ノ際本使ノ參考トシテ使用シタル口上覺ヲ御希望ニヨリ主席ノ極祕含迄送付スヘキ」旨ノ「カバー」ヲ附シタル上別添口上覺(十月十三日ト日附ヲ附ス)ヲ主席

ニ送附スルコトト致度、口上覺ノ内容御檢討ノ上(適宜修文相成度シ)何分ノ儀折返シ回報相成度此段申進ス

本信送付先 大東亞大臣、外務大臣

(別 添)

日華間同盟條約締結交渉口上覺

一、帝國政府ノ訓令ニ基キ本使ハ此處ニ別添ノ如キ案文ニ依リ日本國、中華民國間同盟條約及同附屬議定書ノ締結並ニ交換公文ノ交換方ヲ提議ス

本件同盟條約及附屬書類ハ昭和十五年十一月三十日締結ノ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約及附屬書類ニ置換ヘラルヘキモノニシテ日華間ノ新關係ニ即應スル基本的關係ヲ新ニ律スヘキ劃期的ノ條約ト謂フベク而シテ本年一月九日ノ日華共同宣言ハ大東亞戰爭繼續中ニ於ケル日華兩國ノ協力關係ヲ規定シ居リ謂ハバ前者ハ兩國間恒久ノ協力關係ヲ後者ハ大東亞戰爭中臨時ノ協力關係ヲ規定セルモノニシテ過般來日華兩當局間ニ於テ基本的及臨時的の規定ヲ以テ今後兩國ノ新關係ヲ律シタシトノ意見ノ交換アリタル經緯ニモ添フモノナリ

帝國政府カ本件同盟條約ノ締結ヲ提議セル所以ノモノハ大東亞戰爭開始以來東亞ノ情勢ハ茲ニ一變シ日華兩民族ハ始メテ第三國ノ策動ノ爲相爭フノ謂レナキニ至レルノミナラズ互ニ協力シテ共存共榮シ得ベキ本來ノ關係ニ復歸セリ是レ東亞ニ於ケル歴史的一大轉廻ニシテ帝國政府ハ此ノ新情勢ニ即應シ曩ニ對華新政策ヲ樹立シ着々之ガ實現ニ努力シツツアル次第ナルガ其ノ意圖スルトコロハ中華民國ノ自主獨立益々繁榮ヲ促シ相提携シテ大東亞建設ノ偉業ヲ分擔スルニアリ新條約ハ即チ右ノ如キ日華關係ノ最高目標ヲ示セルモノニシテ今後全面和平實現シ又大東亞戰爭ノ勝利ハ必至ナルヲ以テ其ノ曉ニハ此ノ理想ハ完全ニ實現セラルル次第ナリ帝國ハ此ノ公正ナル態度ヲ最嚴肅ナル條約ノ形式ニ依リ公表セントスルモノニシテ此ノ態度ト決意トハ一點ノ疑ナキ所ナリ

而シテ右ハ今ヤ中國内ハ澎湃タル全面和平ノ氣運ニ對シテモ亦相當ノ影響ヲ與フルモノト思考セラル尙中國人ノ間ニ於テハ帝國ノ斯カル態度ヲ以テ帝國ガ戰爭ニ弱リタル爲ナラント誤解スル向アルヤモ計ラサルガ右ハ誤レルモ甚シキモノニシテ斯カル大膽ナル方針ハ帝國カ必勝ノ

態勢ニ立チ必勝ノ信念ヲ有シテコソ始メテ採リ得ルモノ
ニシテ此ノ點ハ先般汪主席訪日ノ際東條總理等トノ會談
ニ依リ充分感得セラレタルモノト察セラル今後トモ萬一
中國側ニ於テ右ノ如キ誤レル考ヲ抱ク者アラハ之レガ是
正ニ付充分ノ考慮ヲ加ヘラルヘキコトヲ期待スルモノナ
リ

二、同盟條約ノ案文ノ内容ニ關シテハ

其ノ要點ハ曩ニ汪主席訪日ノ際東條總理ヨリ直接述べラ
レタル通ニシテ既ニ種々檢討ヲ加ヘラレツツアルコトト
察セラルルガ先ヅ前文ニ於テ日華兩國政府ガ相互ニ善隣
トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ
基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコト
ヲ期シ之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ固キ決意ヲ
以テ本同盟條約ヲ協定セル旨ヲ定メ第一條ニ於テハ日華
兩國間ノ本然ノ善隣睦關係ヲ規定セルカ本條ハ日華基
本條約ノ第一條ニ相應スルモノナリ

第二條ハ兩國ノ大東亞建設及大東亞安定確保ノ爲相互ニ
緊密ニ協力シ且ツ有ラユル援助ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セン
トスルモノニシテ本條約ノ核心ヲ爲スモノナルカ茲ニ特

ニ注意ヲ喚起致シタキハ本件同盟條約ニ於テハ米英ニ對
スル日華共同ノ戰爭ニ關スル協力ニ付特ニ規定ヲ設ケ居
ラサルモ右協力關係ハ本年一月九日ノ日華共同宣言ニ依
リテ律セラルヘキモノナルヘキモノナルコト之ナリ日華
基本條約カ本件同盟條約ニ依リテ置換ヘラルル結果基本
條約ニ基ク駐兵權其他ハ消滅ニ至ルヘキモ戰時中及大東
亞戰爭繼續中ニ於ケル駐兵及戰爭期間中必要ナル軍事上
ノ要請及便宜供與等ハ日華共同宣言ニ基キ中華民國ニ於
テ支障ナキ措置相成ラルヘキコト當然ノ儀ト思考スル
次第ナリ即チ帝國ハ本年一月九日ノ日華共同宣言ヲ以テ
大東亞戰爭繼續中ニ於ケル日華兩國ノ關係ヲ規定セルモ
ノトシテ極メテ之ヲ重要視スルモノナリ

第三條ニ於テハ互惠ヲ基調トスル兩國間ノ經濟提携ヲ規
定シ第四條ニ於テハ本件同盟條約實施ノ爲必要ナル細目
ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベキ旨ヲ規定セント
スルモノナリ右ノ内第三條ノ經濟關係事項ノ處理ニ關シ
特ニ注意ヲ喚起致度キハ戰爭期間中ニ於ケル重要資源ノ
開發利用等ニ付テノ帝國ノ諸要請ニ對シテハ前述日華共
同宣言ノ趣旨ニ基キ中華民國側ニ於テ障礙ヲ與ヘラレザ

ルハ勿論進ンデ萬全ノ協力ヲ爲サルベキハ當然ノ儀ト思
考セラルル點ナリ

第五條ニ於テハ日華基本條約及附屬文書ハ一切本件同盟
條約ニ依リ代ハラルベキコトヲ規定セントス即チ本件同
盟條約ガ日華基本條約ヲ劃期的ニ更新セントスルモノニ
シテ第五條ノ規定ニ依リ廢棄セラルベキ條約文書ヲ列舉
セバ左ノ通りナリ

(一)公表セルモノ

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約

附屬議定書

附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

(二)公表セザリシモノ

附屬祕密協約

附屬祕密協定

祕密交換公文(甲)

祕密交換公文(乙)

昭和十五年八月二十八日第十五回正式會議議事錄拔萃

日支新關係調整ニ關スル協議書類

右ニ依リ日華基本條約及附屬文書中ニ規定セラレ居タル

左ノ諸項目ハ消滅スル次第ナルカ帝國ハ本件同盟條約締
結ノ趣旨ニ鑑ミ同盟條約中ニ右ニ關シ何等留保スルカ如
キ規定ヲ置カザル次第ナリ

即チ先ヅ駐兵權ニ關シテハ

華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯(基本條約第三條)

共通治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯(基本條約第
四條)

艦船部隊ノ駐留(基本條約第五條、附屬祕密協約第一
條)

ハ消滅シ本件同盟條約ニ於テハ新ニ之ヲ要求セス從ツテ
駐兵間ノ軍事要求權ト便宜供與(附屬祕密協約第二條
竝ニ祕密交換公文(甲)ノ第二ノ二ノ當該事項及第三ノ

五)

モ之ヲ要求セス尤モ日華共同宣言ノ趣旨ニモ鑑ミ戰爭期
間中現實ノ軍事的要求ニハ中華民國側ニ於テ支障ヲ與ヘ
ラレザルベキハ勿論進ンデ萬全ノ協力ヲ爲サルベキヲ信
ズ更ニ

軍事顧問、一般顧問及職員ノ招聘乃至採用(祕密交換
公文(甲)ノ第五)

ニ關シテハ中華民國側ノ要請ニ基キ顧問乃至職員ヲ派遣スルコトトシ特ニ條約ニ於テ規定セザルモノナリ

又基本條約ニ於テ軍事上及經濟上緊密ナル合作ヲ要スル特殊地帶トシテ制定セラレ居リタル

蒙疆、華北、揚子江下流域及華南沿岸島嶼ニ關スル事項

(祕密交換公文(甲)第一乃至第四及附屬祕密協約第二條)

ハ消滅ス尤モ戰爭遂行期間中ニ於テハ右諸事項ノ消滅ノ爲帝國ノ軍事上及經濟上ノ諸要請ニ障礙ヲ生ズルガ如キコトハ中華民國側ニ於テ之ヲ廻避セラルベキコト當然ノ儀ト思考ス

更ニ

外交事項(附屬祕密協定第一條議事錄按萃第三)

文化提携(基本條約第二條)

ニ關シテハ日華基本條約ノ消滅ニ依リ當該規定モ消滅スル次第ナルカ右ハ本件同盟條約ノ善隣友好關係ニ基ク一般提携事項ノ一部ト看做シ特ニ規定ヲ設ケザル次第ナリ以上ノ外

治外法權及一般内地開放(基本條約第七條)
損害補償及難民救濟(附屬議定書第四條)

ニ關シテハ前者ハ本年一月九日ノ條約ニ依リ改メテ規定ノ要ナク又後者ニ付テモ本件同盟條約中ニ特別ノ規定ヲ設クルヲ要セズト解シ居レリ

尙茲ニ特ニ述ベ置キタキハ日華基本條約ガ本件同盟條約ニ依リ置換ヘラルルモ基本條約ト同時ニ調印セラレタル日滿華共同宣言ノ效力ニハ何等影響ヲ及ボスモノニ非ザルコト之ナリ

第六條ニ於テハ本條約ガ署名ノ日ヨリ直チニ實施セラルベキ旨ヲ規定セントス

次ニ附屬議定書ノ内容ニ就キ説明スベシ

附屬議定書第一條ニ於テハ日本國ハ中國ニ於ケル全般的平和克復シ重慶トノ戰爭狀態終了シタルトキハ中國國民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スベキ旨ヲ約スルト共ニ北清事變ニ關スル北京議定書及附屬書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄スベキ旨ヲ規定シ第二條ニ於テハ本附屬議定書ガ本件同盟條約ト同時ニ實施セラルベキ旨ヲ規定セントス

右ハ帝國ガ中華民國ノ自主獨立ノ完整ヲ極力支援シ道義ニ基ク大東亞ノ建設ニ邁進セントスル公正ナル態度ノ表現ニシテ日本國軍隊ノ撤去ニハ基本條約ニ存シタル如キ防共上、治安上、慣例上ノ駐兵ノ留保ヲ附スルコトナキモノナリ

最後ニ交換公文ニ關シ説明スベシ

交換公文ニ於テハ現ニ中華民國ニ存在スル既成事項ノ調整ニ關スル原則ヲ取扱ヒ居ル處

戰爭遂行ニ伴フ特殊ノ事態(附屬議定書第一條第二項)

臨時政府、維新政府ノ辦シタル事項(附屬議定書第二條)

ノ如ク未ダ調整セラレザル部分ヲ存スルモノニシテ本件同盟條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ中國ニ於ケル全般的平和克復シ重慶トノ戰爭狀態終了シタルトキハ本件同盟條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的調整ヲ加フベク又戰爭繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ依リ本件同盟條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ加フベキ旨ヲ中華民國側ヨリ照會ヲ發セラレ之ニ對シ日本側ニ於テ贊成ナル旨ヲ回答セントスルモノニシテ帝國ノ公正

ナル態度ヲ表明シタルモノナルニ付中華民國側ニ於テモ戰爭期間中ハ日華共同宣言ノ本旨ニ照シ軍事上經濟上ノ諸要請ニ支障ヲ與ヘラレザランコトニ努メラルベキハ當然ノ儀ト思考ス而シテ經濟的調整事項ノ處理ニ關シテハ從來モ既ニ幾多ノ調整ヲ誠實ニ實行シ來タリタルコト周知ノ事實ニシテ將來ノ處理ニ付テモ中華民國側ニ於テ帝國ノ誠意ニ滿幅ノ信賴ヲ寄セラレンコトヲ期待ス

編 注 昭和十八年十一月八日発在中国谷大使より青木大東亜

大臣宛電報第二〇一二号によれば、汪兆銘が「今回ノ新條約ハ全部公表スルトノ趣旨ニモ鑑ミ本件書類頂戴スルコト必要無シ」と判断したため、本件口上竟は南京国民政府に手交されなかった。

~~~~~

151

昭和18年10月18日

重光外務大臣より  
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約につき原則として原案どおり妥結するよう改めて交渉徹底方訓令

本省 10月18日後10時発

第二六三號(緊急)

貴電第一六五號及第一六六號竝ニ往電第二五七號ニ關シ抑々今次日華同盟條約我方案ハ中國側ノ意ノアル所ヲ最大限度ニ容レ一切ノ論議ヲ盡シ國內手續トシテモ最モ複雑ナル經路ヲ經最高ノ御決定ヲ得テ漸ク到達シタル所ニシテ當方事情ヲ熟知セラルル貴大使ニ於テ今更貴電御來示ノ如キ先方ノ申出ヲ我方ニ於テ容認困難ナルコトハ御了解ニ難カラスト存ス就テハ貴大使ハ帝國ノ意ノアル所ヲ篤ト先方ニ徹底セシメラレ原案ニ依リ妥結方御努力相成度

我方トシテハ先方ノ申出ニ依リ我方案ヲ變更困難ナルコト前述ノ通りナルカ先方ニ於テ強ヒテ主張スルニ於テハ我方トシテハ先方申出ハ理由ナシト思考シ且之ヲ容認スルコトハ欲セサル次第ナルモ枉ケテ我方原案ニ左ノ通りノ修正ヲ加ヘ案文妥結ヲ計ルモ亦已ムヲ得スト認ム委細往電第二六四號參照ノ上可然先方ト折衝セラレ至急回電アリタシ

二條約第五條

「本條約及附屬議定書ニ依リ代ラルヘキモノトス」ヲ「本條約實施ノ日ヨリ效力ヲ失フモノトス」ト改ム  
二、附屬議定書

「中華民國ニ派遣セラレタル」ヲ「中華民國領域内ニ派遣セラレタル」ト改ム

大東亞省ト協議濟

~~~~~

152 昭和18年10月18日

重光外務大臣より
在中国谷大使宛(電報)

日華同盟条約案文の關係項目に關し改めて説明について

本省 10月18日後10時発

第二六四號(緊急)

往電第二六三號ニ關シ

(一)第三條ニ付テハ元來平等ナル字句ハ政治的ニ使用スルモノニシテ即チ日華間ノ關係カ平等ナルコトハ基本條約ヲ改訂シ本條約ヲ締結スル全面的意義ニ依リ明瞭ニセラレ居レル處經濟上ノ關係ハ互意ノ字句ヲ使用シ片面的ニ非サル相互互意ノ趣旨ニ依ルコトヲ規定セントスルモノナリ依テ支那側ノ言分ハ達成セラレ居レリ
尚本條ハ基本條約第六條第一項ニ有無相通長短相補ノ趣旨及平等互惠ノ原則トアリタルヲ前者(主トシテ日本側

ノ要望)ヲ伏セル以上ハ後者(主トシテ支那側ノ要望)ヨリ平等ヲ除ク方カ第二項以下ヲ伏セル意味ヨリスルモ適當ナリトノ見解モ有リ複雑機微ナル經緯ヲ經テ互惠ニ落着キタル次第アルニ付此ノ點御含ノ上原案ヲ採擇セシメラレ度

(二)第四條ハ之ヲ全體トシテ削除スル時ハ本條約ノ各條カ極メテ根本的ナル原則ヲ規定スルニ止マル關係上如何ニモ本條約ノ實施ニ熱意無キヤノ誤解ヲ與ヘ却テ政治的ニ面白カラサルヘク且條約ノ通例ヨリ見ルモ體ヲ爲ササル虞アリ又當該官憲ヲ政府又ハ國ニ代フルニ於テハ細目ニ關スル協議決定權ノ委任ヲ取付ケ置カントスル本條ノ視ヒヲ外スコトナリ不可ナリ(原案ニ依レハ慣例字句ナルヲ以テ樞府關係モ圓滑ニ行キ而モ或程度ノ權限委任ヲ受クルコトナル)

尙支那側内部關係上ノ危惧ニ付テハ政府ノ承認ナクシテハ當該官憲間ノ協議行ハルコトナキ次第モ併セテ御說明相成本條ハ原案ノ儘ニテ承認セシメラレ度

(三)交換公文ニ付テハ既成ノ事項中ニハ素ヨリ各地方ノ特殊狀態ヲ包含スルモノニシテ之等事項ハ條約上ノ根據ヲ失

フモノナルモ之カ調整方法ニ付テハ實情ニ適シタル了解ヲ爲サントスルモノナリ而シテ戰爭遂行ニ伴フ特殊事態、既成政權ノ辨シタル事項及各地方ノ特殊狀態等既成ノ事項ノ内容ヲ明瞭ニ指摘スルハ寧ロ支那側ノ體面ヨリモ適當ナラスト認メタル次第ナルカ殊ニ各地方ノ特殊狀態ノミヲ摘記スルハ却テ日華間ノ誤解ノ種ヲ蒔クコトナリ適當ナラス

仍テ本件モ原案通ニテ妥結セラレ度尤モ先方ニ於テ特ニ希望スルニ於テハ條約トハ別個ニ我方ト協議ノ上支那側限リニ於テ既成ノ事項中ニハ前記ノ如キ種類ノモノヲ含ムモノナル旨適當ナル方法ヲ以テ公示スルコトハ異存ナシ

大東亞省ト協議濟

153

昭和18年10月18日

在中國谷大使より
重光外務大臣宛(電報)

南京国民政府側の修正要望事項を出来るだけ
受け入れるよう意見具申

南 京 10月18日後9時00分発
本 省 10月19日前10時23分着
第一六九號(緊急、館長符號扱)

今回ノ條約案ニ關シテハ本使ヨリ委曲ヲ盡シテ説明ヲ加ヘ
主席モ良ク帝國ノ意ノ存スル處ヲ諒得セルカ中國人一般ニ
與フル感シノ上ヨリ本條約ヲシテ更ニ一層有效ノモノタラ
シムル爲最高國防會議等ノ檢討ヲ經テ中國側ノ希望シ居ル
修正案ノ主ナルモノハ大要左ノ通りナル處右ハ何レモ大局
上支障無キモノト認メラルルニ付テハ實質上御差支無キ限
リ成ルヘク中國側ノ希望ヲ容認シ遣ル様御配慮相成度ク何
分ノ儀折返シ回電アリタシ(以下番號ハ中國側ニ於テ希望
シ居ル順ニ據ル)

一、交換公文

(一)『現ニ中國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ』ノ上ニ『戰
争行為ニ伴フ特殊事態、既成政權ノ辦シタル事項及各
地方ノ特殊狀態等』ヲ加フルカ

(二)『既成ノ事項特ニ各地方ノ特殊狀態ニシテ』トセラレ
タシ

二、第四條

全文創除ヲ希望スルモ條約ノ性質上右困難ナルニ於テハ
(一)『兩國政府間』又ハ(二)『必要ニ應シ兩國間』ト改メラ
レタシ

三、第五條

『代ラルヘキモノトス』ヲ『廢棄セラルヘシ』トセラレ
度シ

四、第二條

互惠ノ上ニ平等ノ二字ヲ加ヘラレ度シ

五、議定書第一條

中華民國ノ次ニ『ノ各地ニ』又ハ『ノ領域内ニ』ヲ插入
セラレ度シ

大東亞大臣ニ轉報アリ度シ

~~~~~

154

昭和18年10月18日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日華同盟条約案文修正に関する汪兆銘との折  
衝について

南 京 10月18日後8時40分発  
本 省 10月18日後8時50分着

第一七〇號(緊急、館長符號)

貴電第二五七號ニ關シ

十八日汪主席ト會見態々説明ヲ加ヘタル結果主席モ納得シ「同盟」削除ニ關スル中國側希望ハ之ヲ撤回セルニ付テハ右御承認相成度シ

其ノ他ノ事項ニ關シテ實質的ニハ御異議無キモノト存セラ  
ルルニ付出來得ル限り中國側ノ希望ヲ取入レラルル様此ノ  
上共御配意相成度シ

155 昭和18年10月19日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日華同盟条約案文につき南京国民政府側の意  
向を受入れ修正の上妥結の旨報告

南京 10月19日後3時00分発  
本省 10月19日後4時50分着  
第一七一號(館長符號、緊急)

貴電第二六三號及第二六四號ニ關シ

直ニ汪主席ヲ訪問御訓令ノ趣旨ヲ體シ百方折衝ヲ重ネタル  
カ先方ノ苦衷モ亦無視シ難キモノアリ結局原案通り承認セ

シムルヲ得ス左ノ通り妥結セリ右ハ第三條及第四條ニ關ス  
ル中國側ノ熱心ナル主張ヲ壓フル爲ニモ洵ニ已ムヲ得サリ  
シ所ナルニ付テハ枉ケテ御承認相成度シ

(一)條約第五條「本條約實施ノ日ヨリ效力ヲ失フモノトス」  
ト改ム

(二)附屬議定書「領域内」ヲ加フ

(三)交換公文

貴電第二六四號(三)ノ末段ノ方法ヲ講スルコトトシ原案通  
委細追電ス

漢文案ハ別ニ電報ス

大東亞大臣ヘ轉報アリタシ

156 昭和18年10月20日 在中国谷大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日華同盟条約案文に対する中国側修正要望事  
項について

付記 作成日、作成局課不明  
右來電に対する回電案

南京 10月20日 前10時39分発  
本省 10月20日 午後7時10分着

第一七四號(大至急、極秘)

同盟條約案第三條及第四條ニ關スル中國側修正希望意見ハ十九日主席(周佛海、褚民誼列席)ト會見ノ上貴電第二六四號ノ御趣旨ヲ體シ極力説得ニ努メタル結果遂ニ之ヲ撤回セシメタルカ

(一)第三條ノ「平等互惠」ハ基本條約第六條ニ明記セラレ居ル字句ナルノミナラス最高國防會議ニ於テモ取上ケラレタル問題ナル爲先方トシテハ部内ヘノ説明上當惑シ居ルモノノ如ク看取セラレタリ此ノ點ハ今後帝國力誠意ヲ以テ個々ノ實例ニ付直ニ互惠ヲ基調トスル經濟提携ヲ着々具現シ行クニ於テハ自ラ解消スルモノト存セラル

(二)第四條ニ關シ條約トシテノ體裁、日本側内部ノ手續ノ關係竝ニ我方ノ法理的見解等ニ付テハ一同克ク納得セルカ何分ニモ戰爭遂行ニ伴フ特殊事態ノ存續長キニ亘レルト國民政府ノ威令未タ充分地方ニ及ハサル爲從來漢口、厦門等ノ地方官憲ニシテ日本軍憲トノ間ニ國民政府ノ全然知ラサル間ニ取極ヲナシ又ハナササルヲ得サルニ至レル

事例鮮カラス此ノ點主席トシテハ其ノ立場上中國政府内部ノ不統一ヲ自ラ暴露スルモノトシテ寔ニ心苦シキ模様ニ見受ケラレタルカ從來其ノ先例ニ乏シカラサルノミナラス秘密交換公文(甲)及内約等ハ廢棄セラルルモ現狀ニ基ク蒙疆ノ行動防共ノ自治制及華北政務委員會組織條令等ハ依然殘ル譯ニテ蒙疆ノ問題ハ暫ク別トスルモ華北政務委員會ハ防共及治安ニ關スル事項資源ノ開發、對外關係ノ地方的事件等ニ關シ或ル程度ノ自由ヲ有シ居リ(現狀ハ必スシモ組織條令ニ依リ委任セラレタル權限ノ範圍内ノミト言フヲ得ス)地方機關又ハ官憲カ第四條ヲ惡用シ第二條ノ(凡ユル援助)ヲ日本側ト協議シ而カモ之ヲ決定スルカ如キコトアリテハト危惧シ居ルコトカ主席ノ本心ト察セラル就テハ第四條ニ關シテハ日華間條約上ノ理論トハ別ニ國民政府ノ現狀ニ基因スル中國内部ノ政治問題トシテ適當ノ豫防策ヲ考究シ安心ヲ與ヘヤルコト必要ナルヘク例ヘハ日本側ニ於テ必要ノ配慮ヲ爲スト共ニ中國側トシテハ條約發表ト同時ニ同國側限りノ措置トシテ國民政府ヨリ地方官憲ニ對シ(第四條ノ規定ハ細目ニ關スル協議決定ノ點ヲ包括的ニ委任シタルモノニ非ス國民

政府ヨリ豫メ正當ナル權限ノ委任ヲ受クルコトナクシテ  
對外的取極ヲ爲スヲ得ス）トノ趣旨ノ命令（要スレハ祕密）  
ヲ發スル等ノコト國民政府ノ現狀ニ鑑ミ眞ニ已ムヲ得サ  
ル處ト存セラルニ付御研究ノ上何分ノ儀回電アリタシ  
大東亞大臣ニ轉報アリタシ

（付記）

日華同盟條約第四條ニ關スル件（案）

（欄外記入）  
貴電第一七四號ニ關シ

第四條ノ當該官憲トハ正當ナル權限ヲ有スル官憲ニシテ我  
方トシテハ支那側ノ解釋如何ニ拘ラス出先官憲カ任意ニ協  
議決定ヲ爲シ得サル次第ナリ而モ我方トシテハ從來現地ニ  
於テ支那側ト取極メタル事項ニ付テハ速カニ中央ニ於テ一  
括調整ノ意向ナルコト本條約締結要綱備考ニ特記セル通ニ  
シテ況ンヤ今後斯カル出先限リノ取極ノ如キモノヲ豫想シ  
居ラサルコトハ勿論ナリ

就テハ事情更メテ篤ト支那側ニ御說示相成度  
而シテ右ニ拘ラス尙支那側ニ於テ内政上ノ理由ヨリ御來示  
ノ如キ訓令ヲ發スルコトヲ必要ト認ムルニ於テハ我方トシ

テ素ヨリ條約ノ解釋トシテ中央政府ノミカ協議決定權ヲ有  
スルノ原則ニ異存ナキ次第ナルノミナラス事柄自體カ支那  
側内政問題ナルヲ以テ我方トシテ斯カル訓令ノ發出ニ兎角  
申立ツル筋合ニ非サルモ右訓令ノ結果現地ニ於ケル日華官  
憲間ノ日常ノ協力事務ニシテ本條約第四條ニ規定スル如キ  
重要取極メニ至ラサルモノノ圓滑ナル進行ヲ阻害スル等ノ  
副作用ヲ起スコトナキ様此ノ點ハ充分國民政府側ノ考慮ヲ  
促シ度意向ナリ

就テハ敍上ノ趣旨御含ノ上國民政府側ヲ可然誘導相成度  
大東亞省ト打合せ濟ミ

（欄外記入）

外務省ヨリ發電スミ



157 昭和18年10月28日

在中国谷大使より  
青木大東亞大臣宛（電報）

日華同盟條約締結に関する汪兆銘演説の内容  
について

南京 10月28日後0時00分迄  
本省 10月28日後2時40分着

K第三八七號(緊急、館長符號扱)

三十日大會堂ニ於ケル汪院長ノ演說案大體出來上リ中國側ヨリ聯絡アリタルカ其ノ内條約ニ對スル説明トシテ舉ケタル點ハ第一ニ今次ノ撤兵ノ規定ニハ基本條約第三條第四條及第五條ノ如キ留保ナキコトヲ明カニシタルコト

第二ニ特殊地帶ニ關シ「基本條約第六條第二項ニハ華北及蒙疆ノ字句アリ更ニ第四項ニハ揚子江下流地域云々トノ字句アリテ動モスレハ中國地域内ニ特殊地帶存スルカ如キ感ヲ與ヘ且右ハ經濟方面ニ止ラス政治軍事各方面ニ於テモ亦之ニ關聯シテ統一ヲ分裂スルノ危險ヲ生スル惧アルコトヲ感セシメタルカ今回ノ條約第三條ハ是等特殊地帶ニ關スル危惧ノ念ヲ完全ニ一掃セリ」ト述ヘタルコト第三ニ交換公文ノ既成事實ノ調整ニ言及シ「右所謂既成事實ニハ戰爭行為ニ伴ヒ發生セル特殊事態及既成政權ノ辨シタル事項等ヲモ含ムモノニシテ日本側ニ於テハ既ニ基本條約締結以來着々所要ノ調整ヲ加ヘ特ニ新政策實施後ハ中國ノ自主獨立ヲ援助スル爲一大熱意ヲ以テ諸般ノ調整ヲ實行セラレタルコ

トハ承知ノ通ナルカ今回更ニ交換公文ノ通り是等ノ既成事項ハ全面和平實現ノ際ハ根本的ニ調整セラルヘキコト竝ニ其ノ過渡期間中ト雖モ兩國協議ノ上來得ル限りノ調整ヲ行フ旨明白ニ規定シアリスノ如キ日本政府ノ公約ハ必ス實行スルノ誠意ニ對シテハ感謝措ク能ハサルモノナリ」トノ趣旨ヲ述ヘタルコト第四ニ條約第四條ヲ取上ケ「同條ニハ條約實施ニ關スル細目ハ當該官憲ニ於テ協議決定セラルトアル處中國國內手續トシテ斯卡ル對外協定ハ素ヨリ中央ノ指令ニ依リ行ハルヘキモノニシテ其ノ重要ナルモノニ付テハ中央政治會議及立法院ノ議決ヲ經ルヲ要スル次第ナルコトハ言フ迄モナシ」トノ意味ヲ述ヘタルコト以上四點ナリ右ハ何レモ中國側トシテ重要視スル點ニシテ案文妥協ノ際種々經緯アリタルコトハ豫テ申進ノ通ナル處右程度ノ表現ナラハ差支無シト認ム何等御異見アラハ折返シ回電アリタシ

~~~~~

158

昭和18年10月28日

在中国谷大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

日華同盟条約締結に関する谷大使の演說案に

ついで

南京 10月28日午後11時50分発
本省 10月29日午前2時00分着

K第三八八號(大至急)

本日茲ニ閣下ト共ニ日華兩國間ノ永久の友好關係ト大東亞建設ノ爲ノ緊密ナル協力關係トヲ規定セル日本國中華民國間同盟條約及附屬議定書ノ調印並交換公文ノ署名ヲ了シタルハ本使ノ最モ欣快トスル所ナリ

大東亞戰爭開始以來東亞ノ情勢ハ一轉シ日華兩國ハ最早第三國ノ策動ニ乗セラレ兄弟牆ニ相闕クノ謂ナキニ至レルノミナラス互ニ相協力シテ共存共榮ノ道ニ進ムヘキ本來ノ關係ニ復歸セリ之實ニ東亞ニ於ケル歴史の一大轉回ニシテ帝國ハ此ノ新情勢ニ即應シ愈々中華民國ノ自主獨立ノ完成ニ寄與シ其ノ復興ト繁榮トヲ促進シ兩國同一ノ地歩ニ立チ相携ヘテ大東亞建設ノ偉業達成ニ邁進セントスル根本方針ヲ決定シ本年初頭以來着々之カ具現ニ努力シ來レルカ今次ノ同盟條約ハ即チ右日華間ノ新關係ヲ最モ嚴肅ナル形式ニ於テ表現セルモノニ外ナラス之ニ依リ前述帝國ノ根本方針並ニ之カ遂行ニ關スル帝國ノ強固ナル決意モ亦披瀝セラレテ

剩ス所ナシト信ス

本同盟條約ノ調印ニ依リ昭和十五年十一月三十日締結ノ日本國、中華民國間基本關係ニ關スル條約及附屬書類ハ總テ其ノ效力ヲ失ヒ今後日華兩國間ノ基本關係ハ本同盟條約ノ規定ニ依リ律セラルヘク從テ本條約ハ東亞ノ新情勢ト日華間ノ新關係ニ照シ劃期的意義ヲ有スルモノト謂フヘキナリ曩ニ大東亞戰爭遂行中ニ於ケル兩國ノ協力關係ヲ闡明セルモノトシテ本年一月九日ノ日華共同宣言ニ依リ今茲ニ兩國ノ關係ヲ永久の且根本的ニ律スヘキ同盟條約ノ締結セラルルアリ彼此相俟チテ今後兩國關係ハ史上曾テ見サル大轉回ヲナスヘキヤ必セリ

今次ノ同盟條約及附屬書類カ眞ニ重大ナル意義ヲ有スルコト敍上ノ如クナルカ今後中華民國ニ於ケル全般的平和克復シタル曉更ニ一層其ノ光輝ヲ發揮シ得ヘキコト勿論ニシテ本使ハ今後中華民國國民全體カ舉ケテ其ノ本然ノ姿ニ立還リ帝國ト共ニ興亞ノ大業ニ邁進スルニ至ルヘキヲ信シテ疑ハス帝國亦益々必勝ノ態勢ヲ固メ大東亞戰爭ノ完遂ニ邁進シツツアルヲ以テ日華共同ノ大事業ハ本條約ノ締結ヲ機トシ劃期的進展ヲ遂クヘキコト疑ヲ入レス本使ハ中華民國カ

帝國ト共ニ良ク本同盟條約ノ眞髓ニ徹シ大東亞ノ建設ト安定確保ニ努力セラレ以テ本同盟條約ノ世界史的意義ヲ宣揚セラレンコトヲ期待シテ已マス

本日歴史的條約ノ調印ニ當リ一言所見ヲ述ヘテ挨拶ト爲ス



159

昭和18年10月29日

在中国谷大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

日華同盟条約締結に関する汪兆銘の演説案要
旨について

南京 10月29日後0時00分発
本省 10月29日後2時43分着

K第三八九號(大至急)

往電K第三八七號ニ關シ

汪主席ノ演説ハ長文ニ亙ルヲ以テ要旨(冒頭往電報告四點ヲ除ク)ノミ左ノ通電報ス

一、兩國ハ今後平等互惠ノ恒久的友好關係ニ立チ大東亞建設ニ共同努力シ得ルコトヲ前提シ

二、本條約ハ二千年來初メテノ東方道義的規約、且中國百年來ノ不平等的桎梏ヲ一掃セルモノナルコト

三、本條約ノ適用ハ中國今後ノ努力如何(例ヘハ和平治安ノ回復ハ駐兵期間ヲ短縮スルカ如シ)ニ依ルモノニシテ夫レ以外改善ノ途ナキコト

四、本條約改訂ハ日本朝野ノ道義的好意ト同胞的感情ニ出タルモノニシテ中國ヲ起死回生セシメ東亞ニ正シキ平和ノ大道ヲ開ケルモノナルコト

五、日本ノ右決心ト實行ハ近衛聲明當時ヨリ英米勢力ヲ驅逐セル今日租界還付治外法權撤廢實施等ニ至ル迄終始一貫セル理念ニ基ケルコト

六、事變前兩國提攜望ナシトノ悲觀ハ此處數年來ノ事實ニ依リ打破セラレ國父ノ大東亞主義ハ理論ヨリ實行ニ入り吾人ハ今後本盟約ニ基キ同甘共苦同生共死ノ精神的團結ヲ固メ大東亞戰ヲ完遂スヘキコト

七、重慶側ハ嘗テ「蘆溝橋事件以前ノ狀態」ニ復スレハ和平スル旨主張シタルカ今ヤ右狀態ヨリ勝レルニ至リ現在緊要ナルハ重慶ノ抗戰放棄ニアルノミ蓋シ東亞全體ハ勿論中國自身ノ有利且建設治安生産ノ促進増強トナリ參戰後方義務ヲ盡シ得ヘキコト

八、重慶側ニシテ此ノ際抗戰ヲ放棄セサレハ英米ノ爲ノ好餌

トナリ英米空軍ノ爲自國民ヲ曝スノミ更ニ大軍ヲ「ビル
マ」ニ送ルハ獨立ノ芽ヲ摘ム東亞ノ反逆者ニシテ切ニ重
慶側ニ自ラ其ノ歩ムヘキ道ヲ決定センコトヲ望ム旨述フ

160

昭和18年10月29日

青木大東亜大臣より
在中国谷大使宛(電報)

汪兆銘演說案の表現につき注意喚起方訓令

本省 10月29日午後0時30分発

第一八一六號(館長符號扱、緊急)

貴電第三八七號ニ關シ

本件ハ先方ノ意嚮ヲ尊重スヘク我方ヨリ彼レ是レ申出ツヘ
キ筋ニアラサルモ念ノ爲左ノ諸點ニ付先方ノ注意ヲ喚起シ
表現ニ付キ工夫ヲ求メラレタシ

一、基本條約ハ締結當時ノ狀態ヨリ見テ適當ノモノナリシモ
其ノ後大東亞戰爭ノ發生及之ニ伴フ客觀情勢ノ變化、中
國ノ參戰、日華新關係ノ劃期的發展等重大ナル事情ノ變
更アリタル爲之ヲ改訂スルニ至リシモノナルヲ以テ基本
條約自體カ惡シキモノナリシ如キ印象ヲ與フル説明ハ之
ヲ避クルコト

ニ蒙疆、華北等所謂特殊地帶ニ關スル條約ノ規定カ廢止セ
ラレタルコトニ言及スルハ差支ナキモ此ノ點ヲ強調スル
ノ餘リ蒙疆華北等ニ不必要ナル刺戟ト不安動搖ヲ與ヘ却
テ現實ノ事態ヲ惡化セシムルカ如キ結果ヲ招來セシメサ
ル様特ニ細心ノ注意ヲ拂フコト
外務省ト協議濟

161

昭和18年10月30日

「日本國中華民國間同盟條約」

付記一 昭和十八年十月三十日調印

日本國中華民國間同盟條約附屬議定書

二 昭和十八年十月三十日付汪兆銘行政院院長よ
り在中国谷大使宛書簡

右條約確認に關する交換公文來簡訳文

三 昭和十八年十月三十日付在中国谷大使より汪

兆銘行政院院長宛書簡

右條約確認に關する交換公文往簡訳文

日本國中華民國間同盟條約

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ズベシ

第二條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スベシ

第三條

日本國及中華民國ハ互惠ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ效力ヲ失フモノトス

第六條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年十月三十日即チ中華民國三十二年十月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 谷 正之〔印〕

中華民國國民政府行政院院長 汪兆銘〔印〕

〔付記一〕

附屬議定書

本日日本國中華民國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

日本國ハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルト

キハ中華民國領域内ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スベキコトヲ約ス

日本國ハ北清事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄ス

第二條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十八年十月三十日即チ中華民國三十二年十月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 谷 正之〔印〕

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘〔印〕

（付記一）

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラルベシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國三十二年十月三十日南京ニ於テ

大中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘〔印〕

大日本帝國特命全權大使

谷 正之 閣下

（付記二）

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候

本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラルベシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間
ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行
フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致
候

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十八年十月三十日南京ニ於テ

大日本帝國特命全權大使 谷 正之〔印〕

中華民國國民政府行政院院長

汪 兆 銘 閣下

